

CSR Report 2009

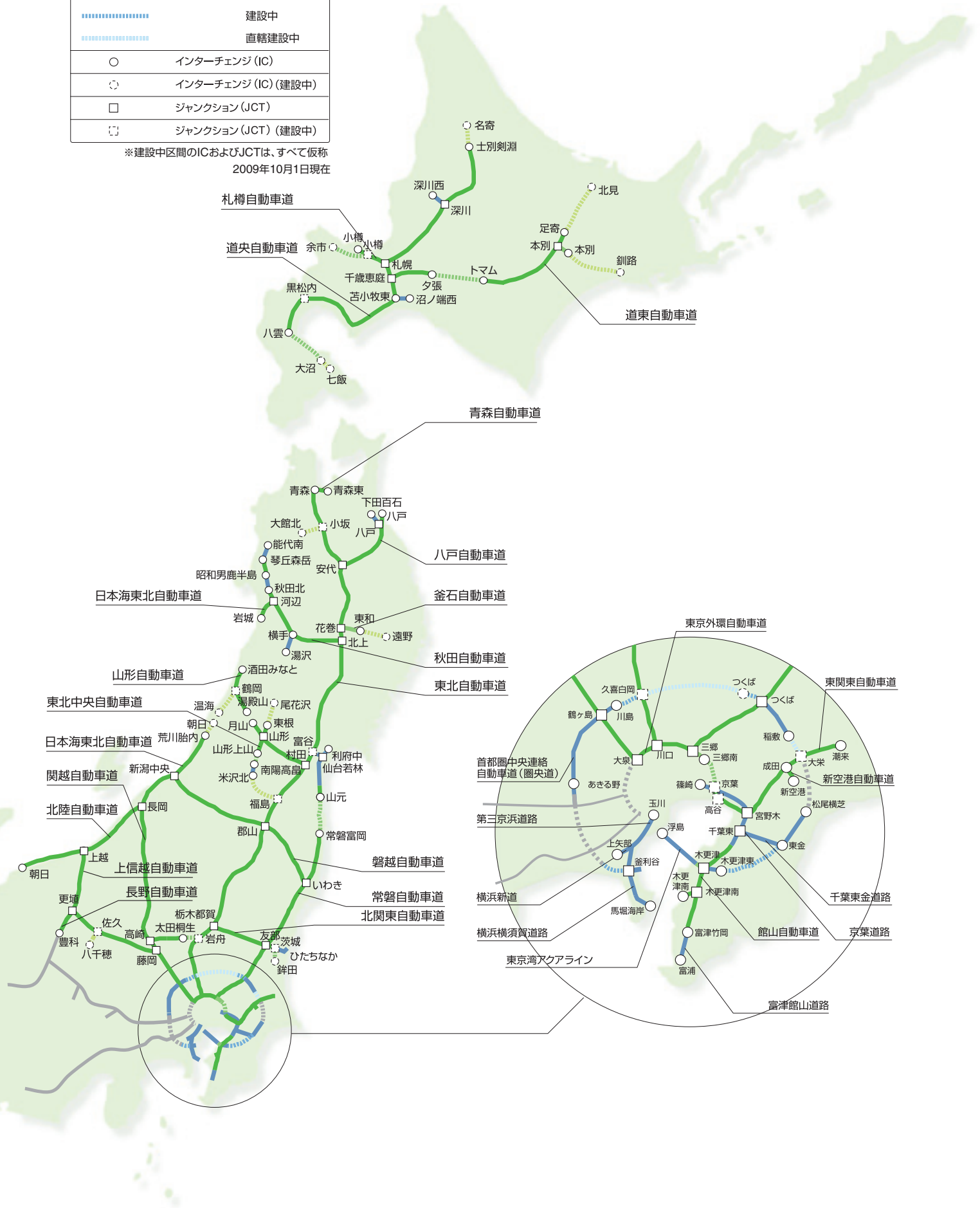
あなたに、ベスト・ウェイ。



NEXCO東日本の事業エリア

——	高速自動車国道 営業中
- - - - -	建設中
- . - . -	新直轄区間
——	一般有料道路 営業中
- - - - -	建設中
- . - . -	直轄建設中
○	インターチェンジ (IC)
○	インターチェンジ (IC) (建設中)
□	ジャンクション (JCT)
□	ジャンクション (JCT) (建設中)

※建設中区間のICおよびJCTは、すべて仮称
2009年10月1日現在



I N D E X

●発行の目的・編集方針

NEXCO東日本は、2007年9月、初めてのCSR（Corporate Social Responsibility）レポートを発行しました。このレポートでは、高速道路という公共性の高い事業を行っている当社が、どのような考え方で、どのような活動に取り組んでいるかを、社会に情報開示する目的で発行しています。全体の構成については「環境側面」「社会側面」「経済側面」のトリプルボトムラインを基本に、体系的で網羅的な情報開示となるよう心掛けました。

●対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日
（一部期間外の活動なども掲載しています。）

●対象範囲

NEXCO東日本およびグループ会社24社

●次回発行予定

2010年9月

会社概要	04
トップコミットメント	06
特集1 “環境のこれから”のために 横浜横須賀道路「自然にやさしい道づくり」	08
特集2 “お客さまの安全・安心”のために 渋滞・混雑対策、料金所の安全対策	10
特集3 “お客さまの快適・便利”のために SA・PA 一歩進んだサービスの提供	14
特集4 “高速道路のネットワーク効果発現”のために 首都圏環状道路・北関東道・磐越道4車線化	16
NEXCO東日本の主な取り組み	20
NEXCO東日本のCSR	22
事業スキーム	24
コーポレートガバナンス	25
コンプライアンス	26
リスクマネジメント	28

環境

環境方針・環境行動指針	30
環境への取り組み（2008年度）	32
NEXCO東日本の環境マップ	34
地球温暖化防止への貢献	36
循環型社会形成への貢献	42
環境負荷の低減	45
環境保全に関する技術開発	49
環境経営の取り組み	50

社会

社会から信頼される企業を目指して	52
お客さまとの関わり	54
地域社会との関わり	72
国際社会との関わり	76
取引先との関わり	77
社員との関わり	78

経済

高速道路事業における還元のしくみ	80
------------------	----

会社概要

社 名	東日本高速道路株式会社	East Nippon Expressway Company Limited
所 在 地	東京都千代田区霞が関三丁目3番2号	新霞が関ビルディング
設 立	2005年10月1日	
資 本 金	525億円	
社 員 数	2,253人（2009年3月31日現在）※1	
事業内容	高速道路の管理運営・建設事業、サービスエリア事業、駐車場事業、高架下活用事業、トラックターミナル事業、カード事業、ウェブ事業、ホテル事業	
営業延長	3,502km（2009年10月1日現在）	
利用台数	1日平均240万台（2008年度実績）	
料金収入	6,639億円（2008年度実績）	
建設延長	366km（2009年10月1日現在）	
サービスエリア・パーキングエリア	303ヵ所（2009年10月1日現在）	上下線別
店舗総売上額	1,240億円（2008年度実績）	

グループ会社	24社	社員数 10,890人（2009年3月31日現在）※2
子会社	18社	



■ **料金収受** 高速道路料金の収受と料金所レーンの適切な運用を行っています。

(株)ネクスコ・サポート北海道※3、(株)ネクスコ・トール東北
(株)ネクスコ・トール関東、(株)ネクスコ・トール北関東



■ **保全点検** 道路の構造物や施設の異常を早期発見するため、日常点検を行っています。

(株)ネクスコ・エンジニアリング北海道、(株)ネクスコ・エンジニアリング東北
(株)ネクスコ東日本エンジニアリング、(株)ネクスコ・エンジニアリング新潟



■ **維持修繕** 事故や災害時の復旧、道路の清掃、草刈、除雪作業などを行っています。

(株)ネクスコ・メンテナンス北海道、(株)ネクスコ・メンテナンス東北
(株)ネクスコ・メンテナンス関東、(株)ネクスコ・メンテナンス新潟



■ **交通管理** 道路パトロールや落下物処理とともに、道路状況の情報提供を行っています。

(株)ネクスコ・サポート北海道※3、(株)ネクスコ東日本パトロール
(株)E-NEXCOパトロール



■ **用地管理等** 建設時における用地の取得事務や高速道路敷地の日常管理を行っています。

(株)ネクスコ東日本トラスティ



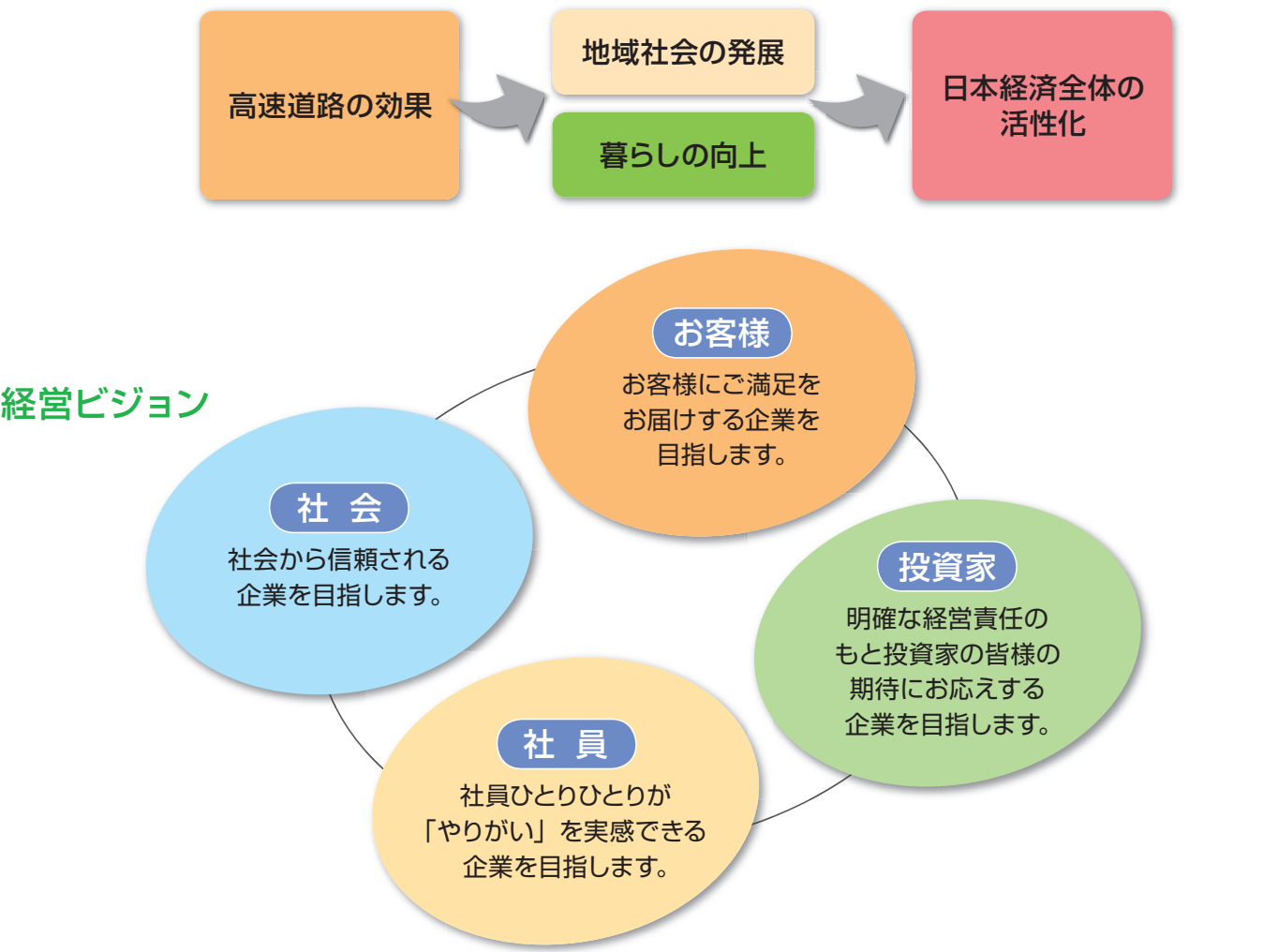
■ **サービスエリア** お客さまにご満足いただける質の高いサービスの提供に取り組んでいます。

ネクセリア東日本(株)、(株)ネクスコ東日本リテイル
(株)ネクスコ東日本エリアサポート

関連会社	6社
■ NEXCO 3社の保険代理店業務	(株)NEXCO保険サービス
■ NEXCO 3社の基幹となるシステムの運用管理	(株)NEXCOシステムズ
■ NEXCO 3社の高速道路技術に関する調査・研究・技術開発	(株)高速道路総合技術研究所
■ NEXCO 3社の料金収受機械等保守整備	ハイウェイ・トール・システム(株)
■ 東京湾アクアライン、海ほたるPAの管理・運営	東京湾横断道路(株)
■ トラックターミナルの管理・運営	東北高速道路ターミナル(株)

※1 社員数は就業人員(社外への出向者を除き、社内への出向者を含みます。)
※2 社員数は就業人員(グループ会社外への出向者を除き、グループ会社内への出向者を含みます。)
※3 料金収受業務・交通管理業務を行っています。

経営理念 NEXCO東日本は、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。



- 経営方針**
- お客様を第一に考え、安全・安心・快適・便利を向上させます。
 - 公正で透明な企業活動のもと、技術とノウハウを発揮して社会に貢献するとともに、的確な企業情報の発信を行います。
 - 終わりのなき効率化を追求するとともに、経営資源を最適に活用することにより、お客様サービスと企業価値を向上させ、健全な経営を行います。
 - 社員各自の努力とその成果を重視し、チャレンジ精神を大切にします。

あな た に、ベ ス ト・ウ ェ イ。 **スローガン** あなたに、ベスト・ウェイ。



NEXCO
東日本

このスローガンの「ベスト・ウェイ」には、ふたつの意味が込められています。まずひとつは、「最良の選択」という意味。これは、物流や移動、あるいは観光など様々な目的に応じてその手段を考えると「最良の選択」として考えていただけるよう、お客さまに利便性や時間効率性を実感していただける道路空間インフラの整備を行っていく、ということです。もうひとつは、「最高の道」という意味。これはご利用いただくお客さまに、利用してよかったと感じていただけるようなサービス・ソフト面でのベストを追求していこう、という気持ちの表れです。高速道路を直接にご利用いただくお客さまのみならず、物流などによって間接的にメリットを享受していただく皆さまにも「ベスト・ウェイ」をご提供していきたい。私たちNEXCO東日本の想いを表す言葉となります。

時速100kmの高速道路を支える プロとして、安全・安心・快適・便利な 質の高いサービスを提供します。



代表取締役会長
八木 重二郎

代表取締役社長
井上 啓一

● 事業概要

NEXCO東日本は、関東以北、長野、新潟から東北、北海道に至る東日本エリアの高速道路の管理運営事業、建設事業、サービスエリア事業および高速道路関連ビジネスを行っております。

NEXCO東日本が管理運営する高速道路は約3,500km、一日約240万台のお客さまにご利用いただいています。私たちは、時速100kmの高速走行空間を、お客さまがいつでも安全・安心・快適・便利にご利用いただけるよう、高速道路のプロとして24時間365日、細心の注意を払いつつ管理運営を行っております。また、首都圏の環状道路をはじめ、地域の発展と暮らしに貢献する高速道路ネットワークの整備を進めており、2008年度には北関東自動車道や横浜横須賀道路の全線開通など、あわせて34kmを開通させ、皆さまにご利用いただけるようになりました。

この他、新しいコンセプトで「道ナカ」を演出した「Pasar」ブランドをはじめとするサービスエリア・パーキングエリアの多彩なサービスやお客さまの利便性を高めるさまざまなビジネスを展開しております。

● NEXCO東日本グループ

NEXCO東日本では、これまで進めてきたグループ会社の再編が完了し、子会社18社及び関連会社6社からなる総勢13,000名のNEXCO東日本グループとしてスタートしました。今後、グループで働く社員一人ひとりが知恵を出し合い連携を取り合って、「現場力」を高め、お客さまをはじめとするすべての方々に「ベスト・ウェイ＝最良の選択・最高の道」を提供してまいります。

また、本年3月末から始まったETC休日特別割引などにより休日の交通量が大幅に増加しましたが、NEXCO東日本ではグループ一丸となって渋滞や混雑緩和のためのさまざまな対策を実施し、きめ細かに取り組んでいます。

● 人材育成

NEXCO東日本では、企業の土台となる社員の人材育成にも力を入れています。社員のやりがいと業績

向上の両立を図ることを目的とした新たな人事制度の導入をはじめ、研修やワークライフバランスの推進などを通じ、一人ひとりの社員がチャレンジ精神を持って、自ら考えて行動することができるような、社員が働きやすい職場の環境づくりに努めています。

● NEXCO東日本のCSR

私たちNEXCO東日本は、「高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献する」ことを経営理念として掲げ、いかなる場合においてもお客さまを第一に考え、効率を追求し、公正で透明な業務運営を行う企業であることを目指しています。また、事業を運営する過程においても、お客さまはもちろん、地域社会や取引先との関係についても大切にしながら、質の高いサービスを提供するよう努めています。

なかでも「環境保全」の分野については、経営の重要課題と位置付け、積極的に取り組んできているところですが、今回新たに横浜横須賀道路の横須賀PAなど神奈川県内4箇所の休憩施設で電気自動車向けの急速充電器を設置する他、横須賀PAについては環境に配慮した「自然にやさしい道づくり」を体感できるエリアへと改修するなど、「環境のこれから」のためのさまざまな取り組みに着手していきます。

● CSRレポート2009

この「CSR Report 2009」は、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして、私たちがその企業活動を通し、どのような社会的責任を果たし、持続可能な社会づくりに向けてどのように貢献しているのかを具体的に取りまとめたものとなっています。特に今回のレポートでは、会社としての「重要課題の現状」を明確化するとともに、「特集」のページを拡充するなど、より充実した内容となっております。

私たちNEXCO東日本グループの活動やレポートの質を向上させるためには、皆さまからのご意見が何よりも大きな力となります。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。今後とも、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

特集

1

“環境のこれから”のために

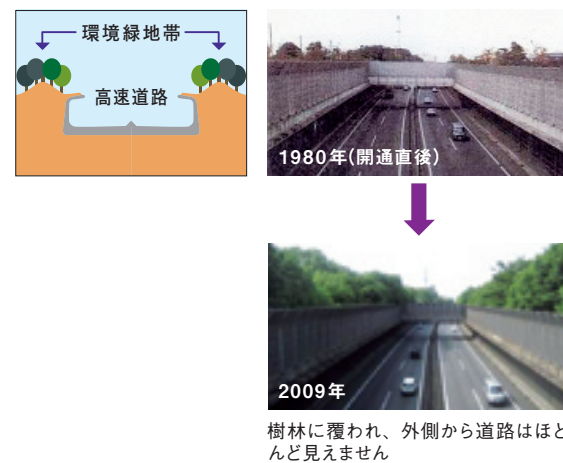
横浜横須賀道路で「自然にやさしい道づくり」を進めています。

神 奈川県横浜市を起点として、三浦半島の南北を結ぶ横浜横須賀道路は、2009年3月20日の「佐原IC～馬堀海岸IC間」の開通により、その全線（32.6キロ）が開通しました。同道路の整備は、まさに「自然にやさしい道づくり」の歴史であり、自然環境や住環境を保全するための様々な工夫がなされています。そして今また、横須賀パーキングエリアを起点とした、環境保全に向けた新たな取り組みが進められています。ここでは、1979年の「日野IC～朝比奈IC間」の開通以降、約30年の歳月を超えて続けられている横浜横須賀道路の「自然にやさしい道づくり」のこれまでとこれからを紹介します。

自然にやさしい道づくり 30年のあゆみ

住居の多い地域では、環境緑地帯を整備して緑を育てました。

1 高速道路周辺の樹林化



自然環境の改変を最小化しつつ、
樹林化、周辺環境との調和を図りました。

2 周辺の自然環境に調和させた景観

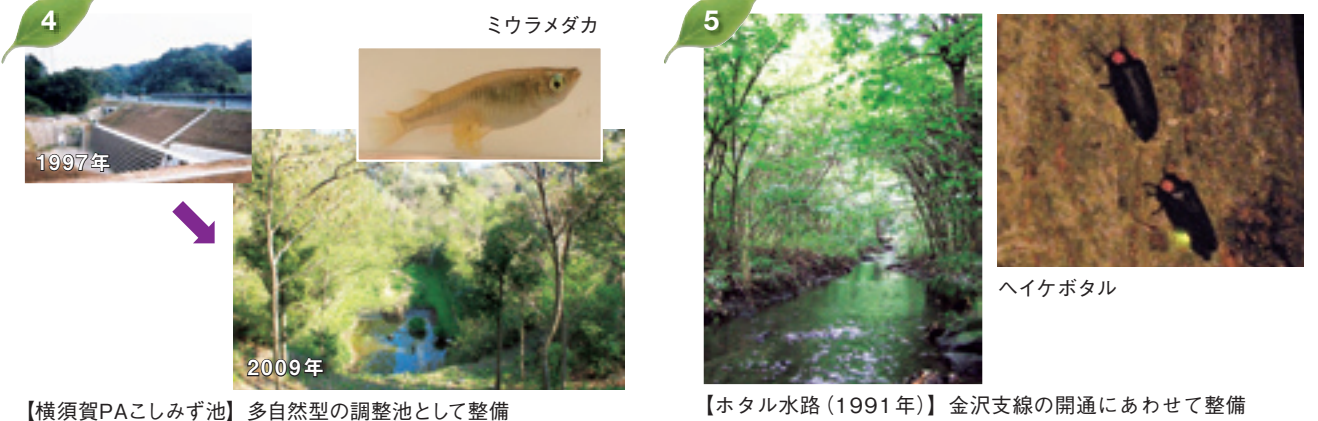


貴重な動植物の生息環境の修復・再生、創出に取り組みました。

3 ビオトープ(動植物の生息・生育空間)を修復して再生 ～釜利谷高架橋下の整備～



ビオトープの創出



“環境のこれから”のための新たな取り組み(2009年度)

電気自動車の普及に取り組んでいます。

神奈川県内4箇所のPA「横須賀(上り・下り)」「保土ヶ谷(下り)」「都筑(上り)」に、電気自動車用急速充電器を設置します。
また、業務用車両として電気自動車を2台導入します。



環境対応型技術の導入を進めています。

横須賀PAでは、太陽光発電によるトイレ内の電力供給、LED照明、路面温度の上昇を抑える舗装、壁面緑化などを新たに整備します。



特集

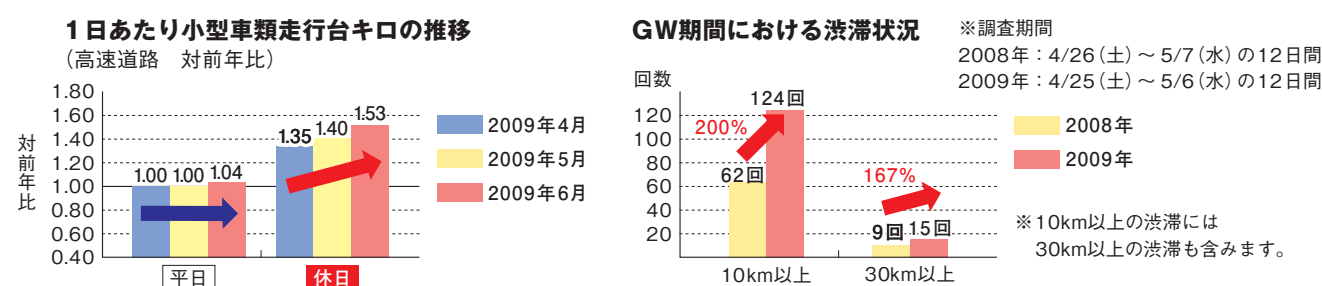
2-1

“お客さまの安全・安心”のために

休日の渋滞や混雑の緩和に 全力で取り組んでいます。

2008年9月には「安心実現のための緊急総合対策」によるETC限定時間帯割引の拡大、2009年3月には『生活対策』（政府・与党会議、経済対策閣僚会議合同会議）の決定によりETC休日特別割引などが導入され、休日の小型車の高速道路利用が大幅に増えています。

NEXCO東日本では、お客さまの安全・安心を第一に、渋滞や混雑の緩和、交通事故の防止のために、グルーブ丸となって取り組んでいます。



渋滞や混雑の緩和のため、様々な対策を講じています。

お出かけ前やご旅行中のお客さまへの情報提供の強化

ドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」では、渋滞情報はもとより快適なドライブのためのさまざまな情報を提供しています。

<http://www.driveplaza.com/>
<http://m.driveplaza.com/>



フリーマガジン「ハイウェイウォーカー」やパンフレット、広告等により、分散利用の呼びかけや渋滞回避のための情報発信を行っています。



その他にも、「NEXCO東日本お客さまセンター」で、24時間365日、お客さまからのお問い合わせにお応えするなど、さまざまな情報提供を行っています。

高速道路本線での対策の強化

高速道路が下り坂から上り坂に変わるサグ部と呼ばれる場所やトンネル部での速度低下が、高速道路の本線渋滞を引き起こす大きな要因となっています。上り坂およびサグ部での速度回復情報の提供や、トンネル内照明の照度アップにより、本線渋滞の緩和に取り組んでいます。

●速度回復情報の提供



効果の事例

場所：東北道(上り)羽生PA付近

平均速度が約8km/時 向上し、渋滞量が約12%減少。

内 容	対策無(2003.4.29)	対策有(2009.4.26)	増 減
日交通量	46.2千台	48.2千台	+2.0千台
渋滞区間の平均走行速度	31km/時	39km/時	+8km/時
対策箇所の渋滞量	53.7km・時	47.3km・時	▲11.9%

●トンネル内照度アップ



その他にも、渋滞後尾での標識車による後尾警戒の増強など、さまざまな渋滞対策を講じています。

サービスエリア・パーキングエリアでの対策の強化

●駐車場整理員の配置

駐車場整理員を配置して、スムーズな交通誘導に努めています。



●仮設トイレの設置

混雑が予想される施設には、仮設トイレを設置しています。



●営業施設の営業時間の延長

夜間のご利用が多いことが予想される施設は、売店・レストラン等の営業時間を延長しています。

●大型車優先マスの確保

大型車、小型車双方のお客さまに適切にご利用いただけるよう、大型車を優先する駐車マスを確保しています。



料金所での取り組み

料金所ではお客さまに安全・円滑に走行していただくために、料金所レーンの適切な開放を行うとともに、料金所の周辺案内図を配布するなどサービスの向上に努めています。また、混雑が予想される料金所には、仮設トイレの設置を行っています。



2009年お盆時期は、過去最大級の体制で臨みました。

高速道路本線での対策の強化(主なもの)

対前年同期

速度回復情報の提供による渋滞緩和の呼びかけ	62箇所	約2.1倍
トンネル照明の照度アップによる速度低下の抑制	48箇所	約5.3倍
渋滞後尾での標識車等による後尾警戒	160箇所	約1.8倍
交通管理隊の増員	76隊・日	約1.5倍

SA・PAでの対策の強化(主なもの)

対前年同期

駐車場整理員の配置	3,759人・日	約3.1倍
大型車優先駐車マスの確保	85箇所	前年実績なし
仮設トイレの設置	345基	約2.8倍
清掃作業員の配置	837人・日	約2.2倍
営業施設の営業時間の延長	6,443時間	約1.2倍

特集

2-2

“お客さまの安全・安心”のために

ETCの普及に合わせ、料金所周辺の
安全性向上に取り組んでいます。

各種ETC料金割引の導入などにより、ETCの普及が進む中、お客さまがより安全・安心にETCをご利用いただけるよう、きめ細かな取り組みを行っています。

安全・安心にご利用いただくための対策を推進しています。

●速度抑制強化対策

ETCレーン内での追突事故等を未然に防止するために2009年3月16日より順次、開閉バーの開くタイミングを遅くする取り組みを実施するとともに、ETCで安全に走行していただくための「ETC安全5則」の広報活動を展開しています。



●ETCカード未挿入お知らせアンテナ

カード挿し忘れによるトラブルを未然に防止するために、本線上などで、事前にカード未挿入をETC車載器を通じてお客さまにお知らせするシステムを導入しています。



●カラー舗装&凹凸薄層舗装

ETC車に対し、路面標示と凹凸による振動によってETCレーン進入時の速度の抑制を促しています。



●ETCセンサーの雪障害対策

雪による通信障害のトラブルを防止するため、雪塊がETCセンサーの表面につきにくい工夫をしています。



料金所係員の接触事故防止対策を実施しています。

●安全通路

料金所係員などがETCレーンを横断する際の接触事故等を防止するために、安全通路を設置しています。



ETCトラブルに迅速に対応しています。

●トラブル発生時の対応

ETCレーンでの異常が発生した場合は、料金所係員がお客さまのもとに急行して車両の安全を確保し適切な処理を行っています。また、開閉バーを簡単に取り替えられる仕様にするなど、事故が発生した場合でも速やかに復旧できるよう工夫しています。



●料金所係員の実務研修

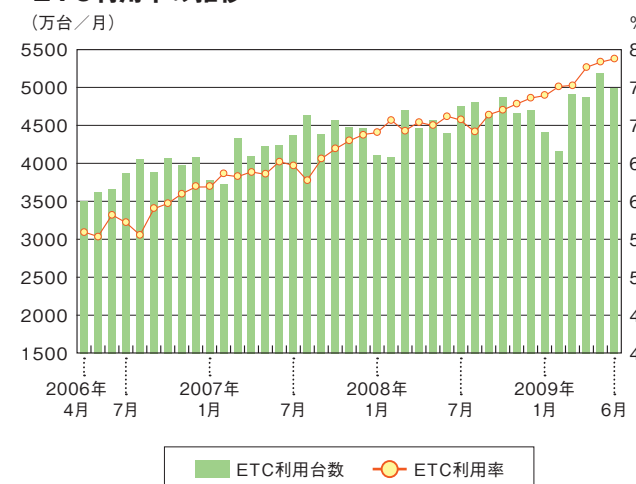
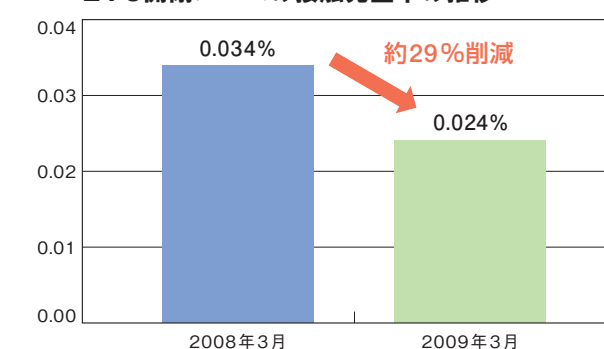
料金所係員の実務研修などを通じて、ETCレーンへの誤進入やカード未挿入車両の進入などのトラブル発生時に安全かつ迅速に対応できるよう努めています。



各種の取り組みにより、ETCの安全性がより一層高まっています。

ETCの普及が着実に進む中、各種対策に取り組んだ結果、ETCの開閉バーへの接触が減少するなどの成果が現れており、ETCをより安全・安心にご利用いただけるようになりました。

ETC利用率の推移

NEXCO東日本
ETC開閉バーへの接触発生率の推移

特集

3

“お客さまの快適・便利”のために

サービスエリア・パーキングエリアでは一歩進んだサービスの提供に取り組んでいます。

お客さまの満足度向上のため、基本的なサービスの向上を目指す「礎づくり」と、地域の特徴を活かした個性的な店舗づくりを目指す「華づくり」を基本コンセプトとしたサービスエリア・パーキングエリアのレベルアップに取り組んでいます。その中から、これまでのイメージを刷新する、“Pasar（パサール）”、“ドラマチックエリア”、“テラス空間”、さらには“非日常の世界を演出するエリア”の4つのカテゴリーのエリアを新たに誕生させ、お客さまのさらなる快適・便利を追求していきます。



地域と連携したサービスを推進しています。

新鮮で安心、リーズナブルな価格で地産地消に取り組んでいます。

●とれたて地元新鮮野菜の販売

お客さまのニーズにお応えするため、「E-NEXCO 野菜市場」を設置し安全・安心・とれたての新鮮野菜をご提供しています。



●新メニューコンテスト

地域の食材を活かした「あんしん」こだわりをテーマにしたレストランメニューのコンテストを開催しています。



一つ一つの設備やサービスの快適・便利を追求しています。

すべてのお客さまに快適でやさしい空間づくりを行っています。

●バリアフリー化の推進

バリアフリー化をはじめ、身体障がい者用駐車場、車椅子や筆談ボード、緊急時のAED（自動体外式除細動器）などの設置も積極的に進めています。



身体障がい者用駐車場



段差の解消

●トイレリフレッシュ計画

和式便器の洋式化、ベビーシート、子供用小便器などの整備を行っています。パサールなどの施設ではパウダーコーナーやフィッティングルーム、待ち合わせコーナーも整備しています。



ドッグラン

●ドッグランの設置

ドライブ途中でも安心して愛犬と楽しんでもらえるよう、愛犬が自由に走り回ることができるドッグランを設置しています。



快適性のご提供とともに、環境への配慮にも取り組んでいます。

●遮熱性舗装と保水性ブロック

夏季の路面温度の上昇を抑えるための遮熱性舗装や保水性ブロックを採用しています。



遮熱性舗装

保水性ブロック

●緑あふれるエリア

駐車場や建物周囲には多種の樹木を植え、屋外テラス席から見える遮音壁も緑化しています。



お客さまの立場に立った情報提供や、きめ細かな対応に取り組んでいます。

●エリアコンシェルジェ

主要なエリアではエリアコンシェルジェを配置し、お客さまとのコミュニケーションを大切にしています。



●ハイウェイ情報ターミナルの設置



特集

4

“高速道路のネットワーク効果発現”のために

首都圏の環状道路をはじめ、 着実な高速道路整備を推進しています。

NEXCO東日本が整備を進める高速道路は、首都圏をネットワークする環状道路や、地域の主要都市間のミッシングリンクを解消する路線です。2008年4月から2009年9月までの間に、新たに5路線55.3キロを開通させ、1路線16.2キロの4車線化を完成させるなど、高速道路のネットワーク効果発現に向け、着実に整備を推進しています。

ここでは、首都圏環状道路（外環道、圏央道）、2008年12月に東北道と常磐道の間が全線開通した北関東道、2008年11月に全線4車線化が完成した磐越道「いわきJCT～郡山JCT間」の整備状況、地域社会や地域経済に与える影響などを紹介します。

新規開通区間（2008.4～2009.9）

- 高速自動車国道営業中
- 建設中
- 新直轄区間
- 一般有料道路営業中
- 建設中
- 直轄建設中
- 2008.4～2009.9開通
- 2009.10～2010.3開通予定

年度	新規開通区間
2008年度	34.1km（4区間）
2009年度（9月まで）	21.2km（2区間）

Ⅲ. 磐越道 4車線化 …… P19

磐越道 4車線化完成 16.2km
船引三春IC～郡山東IC（4.9km）
2008.11.14完成
差塩PA～小野IC（7.2km）および
いわきJCT～いわき三和IC（4.1km）
2008.11.30完成

道東道
占冠IC～トマムIC（26.2km）
2009.10.24開通予定

道央道
落部IC～八雲IC（16.0km）
2009.10.10開通予定

I. 首都圏環状道路 …… P17

圏央道
川島IC～桶川北本IC（5.7km）
2009年度開通予定

圏央道
つくばIC～つくばJCT（4.3km）
2009年度開通予定

圏央道
阿見東IC～稲敷IC（6.0km）
2009.3.21開通

仙台北部道路
利府しらかし台IC～
富谷JCT（6.6km）
2009年度開通予定

常磐道
山元IC～亘理IC
（11.5km）
2009.9.12開通

東関東道
茨城南IC～茨城JCT
（8.8km）
2009年度開通予定

横浜横須賀道路
佐原IC～馬堀海岸IC（4.3km）
2009.3.20開通



日東道
中条IC～荒川内IC（9.7km）
2009.7.18開通

東北道 黒磯板室IC
2009.3.29完成

上信越道
豊田飯山IC～信濃町IC（8.6km）
2009年度4車線化完成予定

Ⅱ. 北関東道 …… P18



北関東道
桜川筑西IC～笠間西IC（8.9km）
2008.4.12開通

北関東道
真岡IC～桜川筑西IC（14.9km）
2008.12.20開通

I. 都心渋滞の解消のため、首都圏環状道路の早期開通を目指します。

現在の整備率は、外環道 約40%、圏央道 約25%。

首都圏の環状道路（外環道、圏央道）の整備率は外環道が約40%、圏央道は2009年3月に「阿見東IC～稲敷IC間（約6.0km）」が開通したことにより約25%になりました。首都圏の道路交通の骨格として、3環状9放射のネットワークが計画されたのは、今からおよそ40年前。以来、東名、中央、関越、東北道など放射方向の高速道路が整備されていく中、環状方向の高速道路の整備は遅れました。その結果、都心に用のないクルマが首都高都心環状線に集中し、慢性的な渋滞が発生しています。環状道路（外環道、圏央道）が整備されると、都心を迂回できるようになり渋滞解消が期待されます。

●NEXCO東日本では、外環道（約16km）および圏央道（約76km）の建設を進めております。*

道路名	区間	延長(km)
外環道	三郷南IC～高谷JCT	16
圏央道	釜利谷JCT～戸塚IC	9
	川島IC～久喜白岡JCT	20
	つくばIC～つくばJCT	4
	東金IC・JCT～木更津東IC	43

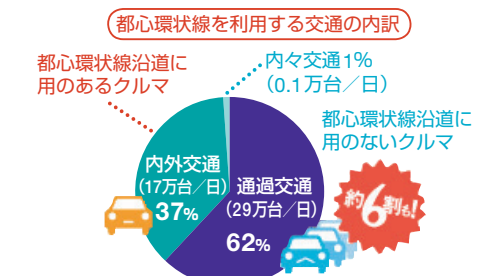
※国土交通省との合併施行及び受託区間を含みます。

完成区間の写真



◆開通した圏央道 稲敷IC付近

●通過交通が、渋滞する都心環状線の要因に。



出典：国土交通省関東地方整備局HPより

首都圏環状道路の整備計画

- 事業中
- 営業中



外環道 高谷JCT付近



圏央道
東金IC・JCT～茂原長南IC間

Ⅱ. 北関東道は、総延長約150kmのうち8割が開通し、東北道と常磐道がつながりました。

2011年、群馬、栃木、茨城3県をつなぐ高速道路ネットワークが完成します。

北関東道は、群馬、栃木、茨城3県をつなぐとともに、関越道、東北道、常磐道の3高速道路を東西に結び総延長約150kmの高速道路です。2008年4月の「桜川筑西IC～笠間西IC間」、2008年12月の「真岡IC～桜川筑西IC間」、2区間（約23.8km）の開通により、東北道と常磐道がつながり、北関東道の開通延長は約122km、総延長の約8割に達しました。北関東道の全線開通は2011年度を予定しており、例えば前橋～水戸間の走行時間は従来の4時間から2時間以内と大幅

に短縮され、地域連携の活性化や地域の産業、経済の発展に大きく貢献するものと期待されています。

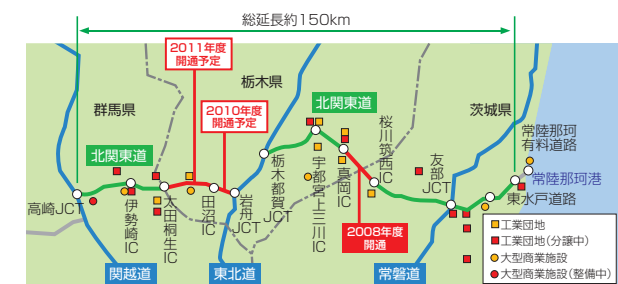


出典：群馬県、栃木県、茨城県H15北関東自動車道地域連携調査

沿線へ、工場や大型商業施設の立地が進んでいます。

例えば、栃木県真岡市にある真岡第5工業団地では、2005年から2008年の4年間に新たに22社の企業が進出しています。また、沿線には複合型の大型商業施設の整備も進んでいます。

北関東道に隣接する主な工業団地および複合型の大型商業施設

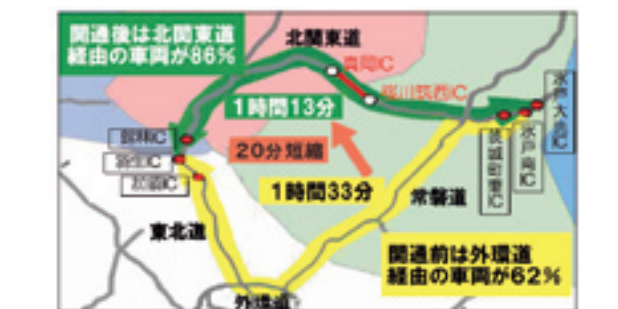


東北道と常磐道が北関東道でつながり、交通の流れが大きく変わりました。

例えば、東北道の館林IC・羽生IC・加須ICから常磐道の水戸大洗IC・水戸南IC・茨城町東ICを高速道路でご利用する場合の経路は、真岡IC～桜川筑西IC開通前では62%の車両が外環道経由でしたが、開通後には北関東道経由の車両が86%となりました。また、羽生IC～水戸大洗ICの所要時間は、20分短縮されて1時間13分となりました。

※使用ETCデータ 開通前：2008.6.16～6.29
開通後：2009.1.18～1.31

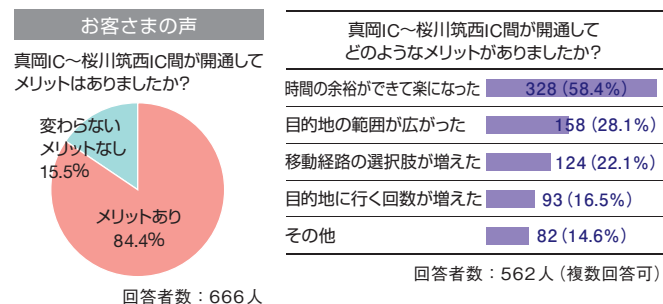
真岡IC～桜川筑西IC開通に伴う交通流と所要時間の変化



お客さまの8割以上が、真岡IC～桜川筑西ICの開通効果を実感されています。

北関東道 壬生PA、笠間PAで行ったアンケートでは、約84%のお客さまが、真岡IC～桜川筑西ICの開通に対して、「時間の余裕ができて楽になった。」などのメリットを感じるとご回答をいただきました。

※壬生、笠間PAアンケート調査：
2009年3月15日（日）、3月17日（火）実施

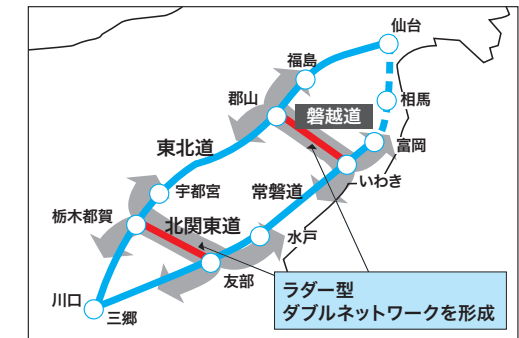


Ⅲ. 磐越道「いわきJCT～郡山JCT間」全線4車線となり、より安全・安心な走行空間が実現しました。

東北道と常磐道を結ぶネットワーク機能が向上

1998年より行われてきた磐越道「いわきJCT～郡山JCT間（約71.4km）」の4車線化工事は2008年11月末にすべて完成し、4車線の高速道路に生まれ変わりました。これにより、規制

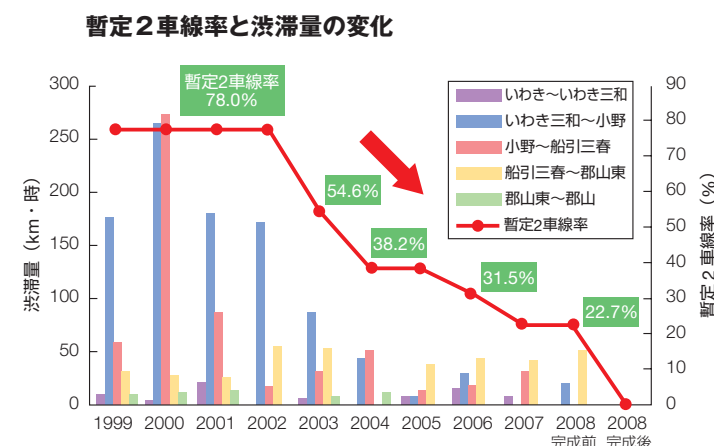
速度が向上（70km/時→80km/時）し、観光地等へのアクセス機能や北関東道と合わせたダブルネットワーク機能の強化が図られました。



混雑期の交通集中による渋滞が改善

この区間は、ゴールデンウィークやお盆の混雑期には、上り坂やトンネルなどの速度低下箇所渋滞が発生していましたが、4車線化完成に伴い渋滞が大幅に減少しました。なお、2009年5月のゴールデンウィークは、新し

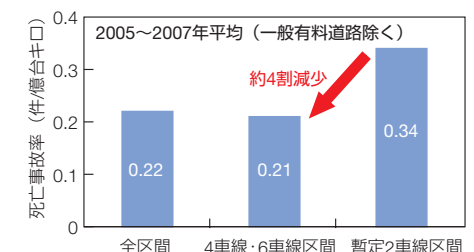
い料金割引制度導入により、過去の混雑期の交通量を1.5倍上回る約4万台/日ものご利用がありましたが、上り坂やトンネルなどでの交通集中渋滞は発生しませんでした。



より安全・安心な走行空間へ

過去のデータから、4車線化は死亡事故率の減少に繋がるものと推測され、より安全・安心な走行が可能となったと言えます。

高速道路の死亡事故率の比較



テーマ		2008年度の取り組み状況（2008年4月～2009年3月）
高速道路のネットワーク効果発現のために		◆新規開通 146km（3年間累計）、4車線化完成 27km（3年間累計）
コーポレートガバナンス・コンプライアンス・リスクマネジメント		◆適切なコーポレートガバナンス体制を整備し、経営の健全性、効率性および透明性の確保に努めるとともに、コンプライアンス体制、リスクマネジメント体制などの内部統制システムの構築を図っています。
環境	特集1 参照	「環境編」P32・33に掲載。
お客さま	ご利用しやすい料金設定 ~~~~~ 気持ち良くご利用いただける料金所	◆ETC各種時間帯割引に加え企画割引「ドラ割」やキャンペーンなどを実施しました。 》料金企画割引 10件、マイレージキャンペーン 4件 》ETCを活用した料金割引額 1,929億円（割引前収入の約22.9%）【目標値の+184億円】 》ETC利用率 75% 【2005年度値の+20ポイント】 ◆料金所では、適切なレーン開放や通行止め時の対応、ETCレーンのモニタリングなどを実施し、円滑な交通の確保に努めています。
	効率的かつ効果的な維持管理 24時間365日、安全・快適なドライブをサポート	◆24時間体制の維持管理や橋梁・各種設備の老朽化対策を計画的に取り組んでいます。 》利用時間確保率 99.8% 【目標値の+0.3ポイント】 》顧客満足度 3.6 【目標値と同値】 ◆交通管理巡回などにより道路や交通の状況を把握し、迅速な道路交通情報の提供や異常事態への対応を24時間体制で行っています。
	渋滞緩和への取り組み	◆上り坂およびサグ部※での速度回復情報の提供などに取り組んでいます。 》本線渋滞損失時間 374万台時間／年 【目標値に対して66万台時間／年の減少】 ※下り坂から上り坂にさしかかる凹部をサグ部といいます。
	雪や災害に強い道路	◆雪氷作業の効率化と視界不良時の対策やドライブ旅行の情報サイトでの情報提供を行っています。 》冬期利用時間確保率 99.7% 【目標値の+0.4ポイント】 ◆橋梁の耐震補強、防災通信システムの拡充・強化を進めています。 》橋脚補強完了率 92% 【2005年度値の+16ポイント】
	交通の安全性を高める活動	◆さまざまな安全対策と交通安全啓発活動などにも取り組んでいます。 》高機能舗装 63% 【2005年度値の+10.7ポイント】 》強化型防護柵整備率 89.7% 【2005年度値の+11.7ポイント】 》死傷事故率 7.6件/億台キロ 【目標値に対して3.3件／億台キロの減少】
	技術開発・品質確保	◆高速道路を効率的に管理運営・建設するための技術開発・品質確保に取り組んでいます。 》新たな技術の現場への適用(キャビテーション技術を活用したトンネル清掃の省力化等)
	緊急時の迅速・適切な対応	◆救命活動や緊急医療のサポートとしてヘリポートや緊急入退出路の整備を進めています。 》ドクターヘリの運用支援(福島県) 》緊急入退出路の整備(2箇所)
	お客さまへのおもてなし(快適・安心のサービス)	◆バリアフリー化の推進や「礎づくり」「華づくり」といったサービス向上に努めています。 》コンビニエンスストア・専門店の積極導入 17箇所(2006年度からの累計 58箇所) 》SA・PA建物のリニューアル 12箇所(2006年度からの累計 39箇所) 》農産物等の地域特産物の販売 2箇所(2006年度からの累計 7箇所)
	お客さまの利便性向上のための新たな取り組み	◆高速道路をお得にご利用できるカードやドライブ旅行の情報サイト「ドラぶら」の提供など、新たな取り組みを行っています。 》「ドラぶら」の充実(料金・ルート検索機能の向上など) 》会員カードサービスの拡充(ポイントサービス提供店の拡大など) 》高速道路から直接ご利用できるホテルの開業(東北道 佐野SA)
	お客さまの声に応えたサービスの改善	◆お客さまの声に24時間365日対応し、より質の高いサービス提供に挑戦しています。 》お客さまの声受付状況 1日当たり1,500件(うち、ご意見・ご要望 約30件 構成比2%)
地域社会	地域の経済活性化と地域社会との交流	◆地域と連携した地域観光などの推進や現場見学会などによる地域交流を図っています。 》地域イベント、現場見学会などの実施
	大規模災害時の機能確保	◆大規模災害時には、迅速な復旧により、ライフラインとしての機能確保に努めています。 》2008年8月 山形道鶴岡地区の土砂流出災害では、発災後38時間で通行止めを解除
国際社会	世界の高速道路づくりに貢献	◆海外道路事業への参画や発展途上国への専門技術者派遣など、世界の高速道路づくりに貢献しています。 》アルジェリア東西高速道路建設工事他2件への参画
取引先	取引先との連携を深め、よりよいサービス提供や安全・円滑な事業を推進	◆SA・PAでのよりよいサービス提供のためのテナント支援や工事施工業者と一体となった工事中事故防止に取り組んでいます。 》サービスレベル向上のため「新メニューコンテスト」を開催 》工事施工会社と一体となった「安全協議会」による安全パトロールや安全講習会を実施
社員	「社員が働きやすい職場」の環境づくり	◆新人事制度の構築、ワーク・ライフ・バランスの推進など、「社員が働きやすい職場」の環境づくりに取り組んでいます。 》能力の発揮・実績などを公正に評価する人事評価制度の導入

2010年度までの取り組み（2006年度➡2010年度）		頁
◆新規開通延長 274km（5年間累計）、4車線化完成延長 36km（5年間累計）		16－19
◆コンプライアンスの徹底、談合等不正行為の防止、リスク管理体制の強化を目的に内部統制システムを構築し、実効性あるガバナンスを確立します。		25－29
		30－51
◆ETCを活用した企画割引などの料金サービスの展開、ETCの利用促進や安全性向上に積極的に取り組みます。 》料金企画割引などの積極的な実施 》ETCを活用した料金割引額 …【1,745億円】（割引前収入の約19.4%） 》ETC利用率 …【2010年度目標 73%以上】（2005年度実績 55%）		54 ~~~~~ 55
◆毎日安心してご利用いただけるよう、道路のきめ細かい日常管理を行います。 》通行止め時の迅速な交通の回復 利用時間確保率 …【99.5%以上】 》顧客満足度(CS) 調査を実施・分析したCS向上 顧客満足度 …【3.6※以上】 ※「満足」～「不満」までの5段階評価で、3.6は「どちらでもない」～「やや満足」の範囲のほぼ中間値。		56・57 ~~~~~ 58・59
◆速度回復情報提供の充実や付加車線の設置など、渋滞緩和に努めます。 》本線渋滞損失時間 …【2010年度目標 440万台時間／年 以下】		60
◆雪氷作業や雪氷対策設備の充実を図り、雪に強い道路を目指します。 》冬期利用時間確保率 …【99.3%以上】 ◆橋梁の耐震補強など防災対策を推進します。 》橋脚補強完了率 …【2010年度目標 100%】（2005年度実績 76%）		61
◆道路の走行環境の向上を図るため、交通安全対策や舗装の高機能化を推進します。 》舗装の高機能化の推進 高機能舗装率 …【2010年度目標 68%】（2005年度実績 52.3%） 》中央分離帯の防護柵を強化型に整備 強化型防護柵整備率 …【2010年度目標 96%】（2005年度実績 78%） 》効果的な交通安全対策による死傷事故率の低減 死傷事故率 …【10.9件／億台キロ 以下】		62・63
◆「事業の効率化・品質の確保」・「安全・円滑・快適の向上」・「環境保全」のための技術開発を推進し、高品質な高速道路を提供します。 》技術力の現場への適用を通じたフォローアップ(PDCA) による、更なる技術開発		64・65
◆緊急時にも迅速・適切に対応できるよう、救命活動や緊急医療への支援を行います。		66
◆サービス水準の向上と多機能化により、お客さまにご満足を提供するとともに、事業環境の変化に柔軟に対応して、前向きな店舗の展開と効率的な事業運営に努めます。 》コンビニエンスストア、専門店の積極導入 》SA・PA建物のリニューアル 》農産物等の地域特産物の販売		67－69
◆社会のニーズを踏まえた新たな事業に取り組んでいきます。 》ドライブ旅行の情報サイトの開設(2006年10月) 》会員カードサービスの開始(2006年12月)		70
◆「お客さまの声」を大切にし、お客さまの喜びにつながる対策を積極的に進めます。		71
◆地域の皆さまとの連携を深めるとともに、お客さまとのふれあいを大切にします。		72・73
◆大規模災害時には早期復旧に努め、高速道路が緊急輸送路としての機能確保に努めます。		74・75
◆これまで培ってきた技術やノウハウを活かし、海外における道路事業への参画など、世界の高速道路づくりに貢献します。		76
◆SA・PAのテナント支援等を実施し、お客さまの多様なニーズに応える商品・サービスを提供します。また、道路建設事業においては、品質管理・安全管理などの向上を目指します。		77
◆ワーク・ライフ・バランスを推進し、休暇制度や福利厚生制度の充実に努めます。		78・79

※「2010年度までの取り組み」については、「NEXCO東日本 中期経営計画（2006～2010）」（2006年10月26日公表）に基づくものです。

公共性の高い事業を、効率よく運営すること。 それがNEXCO東日本の使命です。

NEXCO東日本のCSR

NEXCO東日本は、「高速道路の効果を最大限発揮させることにより、地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献する」ことを経営理念に掲げています。

その下で、NEXCO東日本が果たすべき社会的責任の根幹は、高速道路事業を効率的かつ公正に運営し、安全・安心・快適・便利な道路空間を提供することです。

事業を運営する過程においても、お客さまはもちろん地域社会、取引先、社員との関係を大切にしながら、質の高いサービスの提供や、環境への取り組みを進めています。

高速道路の公共性

NEXCO東日本は、東日本地域の3,502kmの高速道路の管理運営、366kmの建設を行っています。高速道路は、地域間の時間距離を飛躍的に短縮するなどの交通機能を通じて、沿線地域の工業、農業、観光などの諸産業の活性化、行動圏の拡大による日常活動の活発化をもたらし、地域の発展に大きく寄与

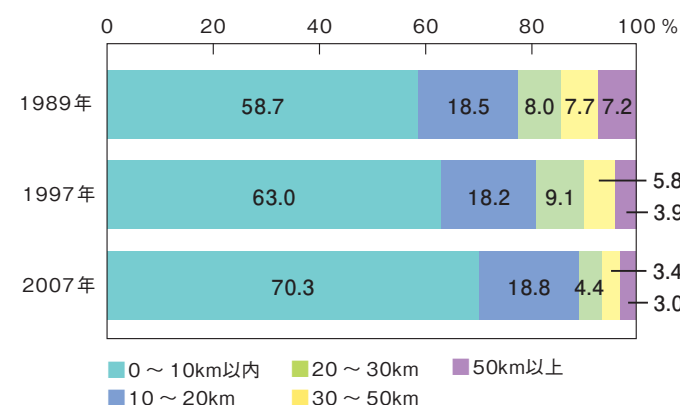
しています。例えば、工場進出などによる工業発展、産地の広域化などによる農業振興、アクセス改善による地域観光の活性化、雇用機会拡大などによる人口定着・増大および地方税収の増加、高速バスの発達などの効果が挙げられます。

地域産業の支援

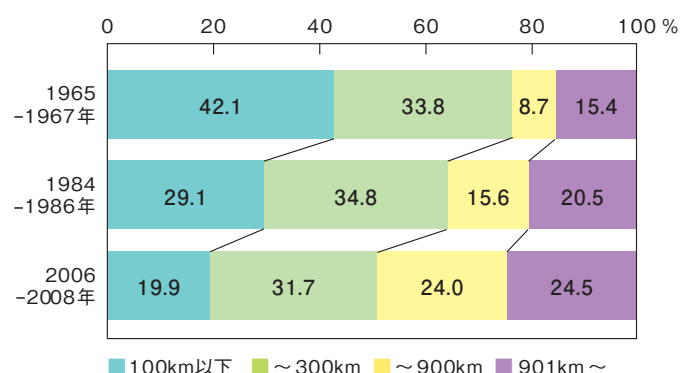
高速道路は、原材料の調達、製品の輸送等を容易にし地域産業の定着・発展を支援します。

また、農産品等生鮮品の輸送時間短縮により、遠方への出荷を可能にするなど、商圈・商機の拡大に寄与しています。

高速道路ICからの距離別工場立地件数シェア



東京都中央卸売市場の野菜取扱高(金額)における
東京からの距離帯別シェアの推移



非常時の高速道路

高速道路は、災害時に通行できなくなったルートの迂回路・代替輸送経路として、人員や物資の輸送を可能にし、被災地の復旧に貢献します。新潟県中越沖地震では、地震発生後約4時間で緊急車

両の通行車線を確保し、約56時間後には全線の通行止めを解除しました。

また、緊急医療施設の近くに緊急入退出路を設けるなど、地域の医療にも貢献しています。



新潟県中越沖地震の震災復旧



緊急入退出路

効率的な経営を目指して

NEXCO東日本は、グループ会社と経営理念・経営ビジョンを共有し、「お客さま第一」、「公正で透明な企業活動」、「終わりなき効率化の追求」、「チャレンジ精神の重視」の経営方針のもと、グループ一体となって、経営資源の最適化を図り効率性を追求するとともに、お客さまサービスとグループ企業価値を向上させます。2010年度までを「経営基盤を確立する期間」と位置付け、次の取り組みを確実に実行します。

- 目標管理制度を導入し、経営目標の実現に向けた経営マネジメントシステムを構築します。
- 社員のやりがいと会社の業績向上の両立を目指す人事制度を構築します。
- 現場重視の経営を基本とし、効率的な組織体制を構築します。
- グループ企業価値の最大化に向け、グループ経営を確立します。
- システムの効率化・全社最適化を図るとともに、運用体制などの強化を進め、信頼性の向上を図ります。

高速道路管理運営・建設事業のスキームとサービスエリア事業などのスキームの違いについてご説明します。

NEXCO東日本は、2005年10月、日本道路公団の分割・民営化によって設立されました。高速道路管理運営・建設事業のほか、サービスエリア事業や高速道路関連ビジネスを行っていますが、これらの事業は異なるスキームで運営されています。

民営化の目的

日本道路公団を含む道路関係4公団の民営化は、「民間にできることは民間に委ねる」との原則に基づき、「約40兆円に上る有利子負債を確実に返済すること」「真に必要な道路を、会社の自主性を

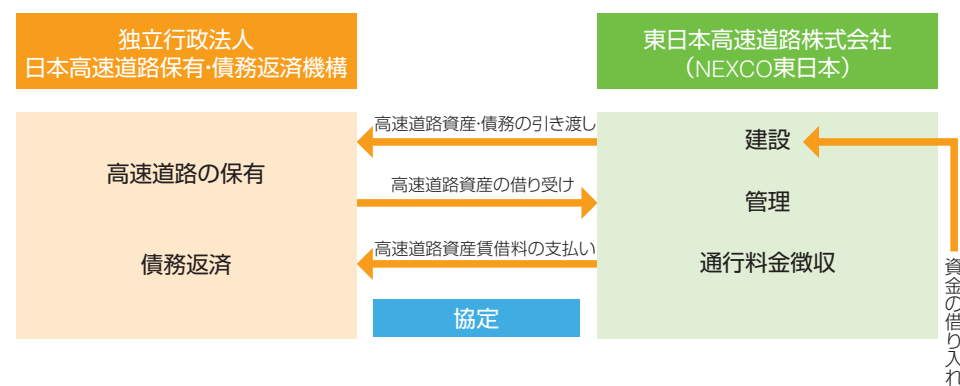
尊重しつつ、早期にできるだけ少ない国民負担で建設すること」「民間ノウハウの発揮により、多様で弾力的な料金設定や多様なサービスを提供すること」を目的として行われました。

高速道路管理運営・建設事業のスキーム

高速道路の管理運営・建設事業に関する基本的な事項については、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」）と協定を締結するとともに、事業の内容および予算が妥当であること、適正な通行料金の設定のもとで高速道路資産賃借料が確実に支払われること、高速道路資産賃借料

によって機構が行う民営化後45年以内の債務返済が可能であることなどについて、国土交通大臣の事業許可を受けています。

なお、高速道路は国民共有の財産であることから、通行料金の設定に当たっては、当社の利潤を含めないこととされています。



サービスエリア事業・高速道路関連ビジネスのスキーム

サービスエリア・パーキングエリアはNEXCO東日本が所有する施設です。お客さまの利便性向上のために、これまでにないさまざまなサービスを提供してきました。また、カード事業、ウェブ

事業、ホテル事業などの高速道路関連ビジネスは、自らの経営責任のもと、国土交通大臣への届出方式により、自由度の高い事業を展開しています。

コーポレートガバナンスの充実に向けて体制の整備、内部統制システムの構築を図っています。

NEXCO東日本は、皆さまから支持と信頼をいただくために、コーポレートガバナンスの充実を最重要課題のひとつと位置付け、経営の意思決定、業務執行などについて適正な体制を整備し、経営の健全性、効率性および透明性の確保に努めています。

コーポレートガバナンスの状況

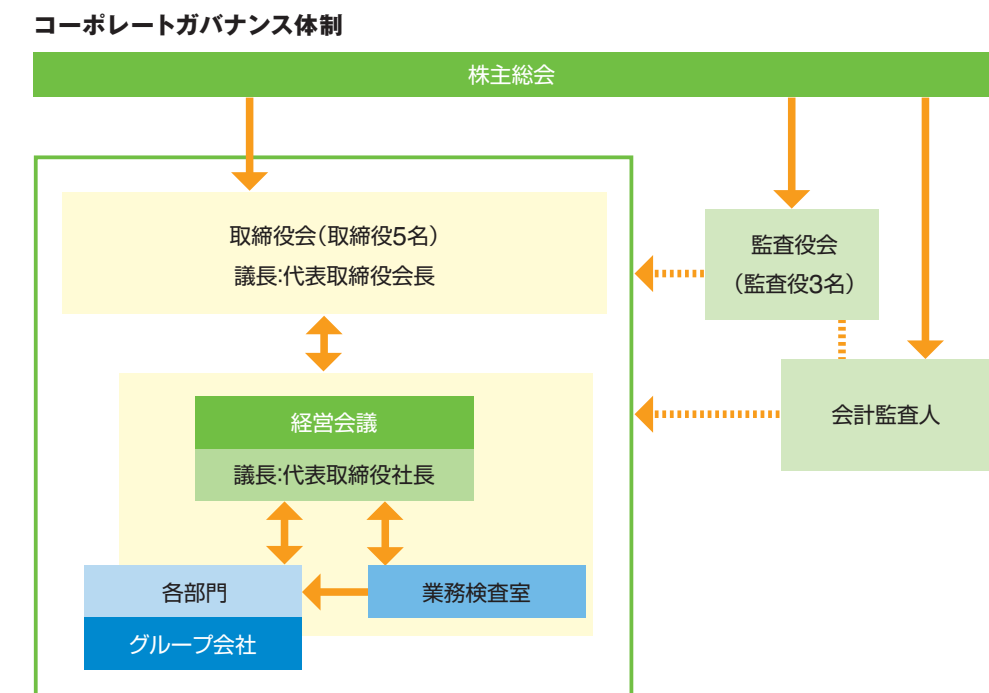
NEXCO東日本の取締役会は取締役全員5名で構成され、監査役も出席し、経営の方針、法定事項などについて決議をするとともに、取締役の職務の執行状況を監視しています。経営会議は取締役および常務執行役員で構成され、常勤監査役のほか必要に応じて他の執行役員などの出席を求め、全社的に影響を及ぼす重要事項について審議・決議しています。

監査役会は3名の社外監査役で構成され、監査のために必要な決議を行い、各監査役はその方針に従い、取締役会その他重要な会議への出席などにより取締役の職務の執行を監査し、監査役会に報告しています。また、業務検査室を設置し、社内規程に基づき内部監査を実施しています。

内部統制システムの構築

NEXCO東日本は、業務を適正かつ効果的に遂行するため、コンプライアンス体制、リスクマネジ

メント体制などの内部統制システムの構築を図っています。



公共性の高い事業を公正に推進するために、 コンプライアンス意識の向上を図っています。

公正で透明な経営を行うために、NEXCO東日本は、談合などの不正行為を絶対に許さないという決意のもと、社員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上を図り、社会から信頼される企業を目指します。

倫理行動規範の制定

社員一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することが基本であるという認識のもと、全ての役員、執行役員および社員が様々な局面で実践すべき指針として「倫理行動規範」を制定しました。

NEXCO東日本 倫理行動規範

I. 一般原則

●法令遵守

法令や社会のルールを遵守することはもとより、高度な倫理観を確立し、常に公正・公平・清廉を旨として行動します。

II. お客様との関係

●お客様への姿勢

お客様の安全を第一に考えるとともに、お客様とのふれあいを深めて、お客様の期待に応える高速道路事業を行います。

●個人情報の保護

個人情報保護の重要性を認識し、個人情報を慎重かつ適正に取り扱います。

●公正な取引の確保

取引先との健全な関係のもと、常に公正な取引の確保に努めます。

●企業価値の向上

明確な経営責任のもと、企業価値の向上に努めます。

III. 社会との関係

●社会への貢献

地域社会や国際社会の発展に貢献するとともに、人に優しい高速道路事業を行います。

●環境の保全

環境に配慮した高速道路事業を行います。

●情報の開示

企業情報の積極的な開示により、高速道路事業の透明性を高めます。

●政治・行政との関係

政治・行政との正常かつ健全な関係を保ちます。

●反社会的勢力等への対応

市民社会に脅威を与える反社会的勢力及び団体などには、毅然として対応します。

IV. 職場のあり方

男女共同参画社会の形成を推進し、安全で働きやすい職場環境のもと、働きがいを実感できる企業風土を育みます。

V. 道路資産等の保全

重要な社会基盤である高速道路を良好に管理・運営するとともに、有形無形の会社財産を適正に管理し、その価値向上に努めます。

VI. 経営の最高責任者の役割

経営の最高責任者は、自らの役割としてこの規範の精神を率先垂範し、社内に周知徹底するとともに、そのための実効ある社内体制の整備を行います。この規範に反する事態が発生したときには、自らが問題解決に当たり、原因究明及び再発防止に努め、説明責任を果たします。

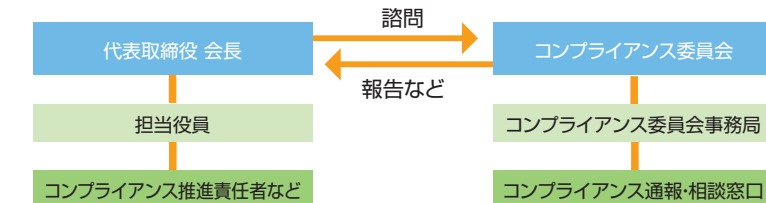
(2005年 11月24日 制定)

コンプライアンス体制

外部弁護士を委員長とし、外部有識者3名と役員2名を委員とする「コンプライアンス委員会」を設置。コンプライアンス活動推進に関する基本方針や

社内規程などへの違反事案に関する審議を行います。2009年度は職場ごとの啓発活動の推進とグループ会社の活動支援を図ります。

コンプライアンス体制



法令遵守と公正性・透明性を確保した調達の実現

公正で透明な調達手続きにより、調達にかかるあらゆる不法・不正行為の排除に努めています。

調達の適正を確保するための取り組み

●調達にかかる営業活動の自粛要請と接触禁止の徹底
入札参加希望者に対して、調達にかかる営業活動を禁止するとともに、社員にも、接触を行わないよう倫理教育を行っています。

●調達手続きにかかる情報の管理の徹底
契約制限価格や発注予定など、調達手続きにかかる情報については、情報セキュリティ対策を実施し、情報漏洩などの防止を徹底しています。

公正性・透明性を確保した 調達制度の構築と実施

●一般競争入札と総合評価落札方式の原則化
競争方法を一般競争入札とし、また、落札決定方法を総合評価落札方式とすることにより、品質と価格に優れた調達を実現しています。

●調達手続き、調達結果にかかる情報の公表
「公共工事の入札及び契約の適正化に関する法律」を踏まえ、工事などの調達情報や、主要工事の平均落札率を公表しています。

入札監視機能の強化

●入札監視委員会の設置
外部有識者からなる「入札監視委員会」を支社ごとに設置し、発注した工事などの入札資格などについて審議しています。

●入札監視統一事務局の設置
「入札監視統一事務局」を設置し、入札契約手続きに関する事前・事後の審査や、データの収集分析を行っています。

24時間・365日、迅速かつ適切な対応ができるよう、リスクマネジメントのPDCAを行っています。

高速道路という社会インフラの適正な管理運営と、災害などからの迅速な復旧に向けて、旧日本道路公団時代からリスクマネジメントに取り組んできました。

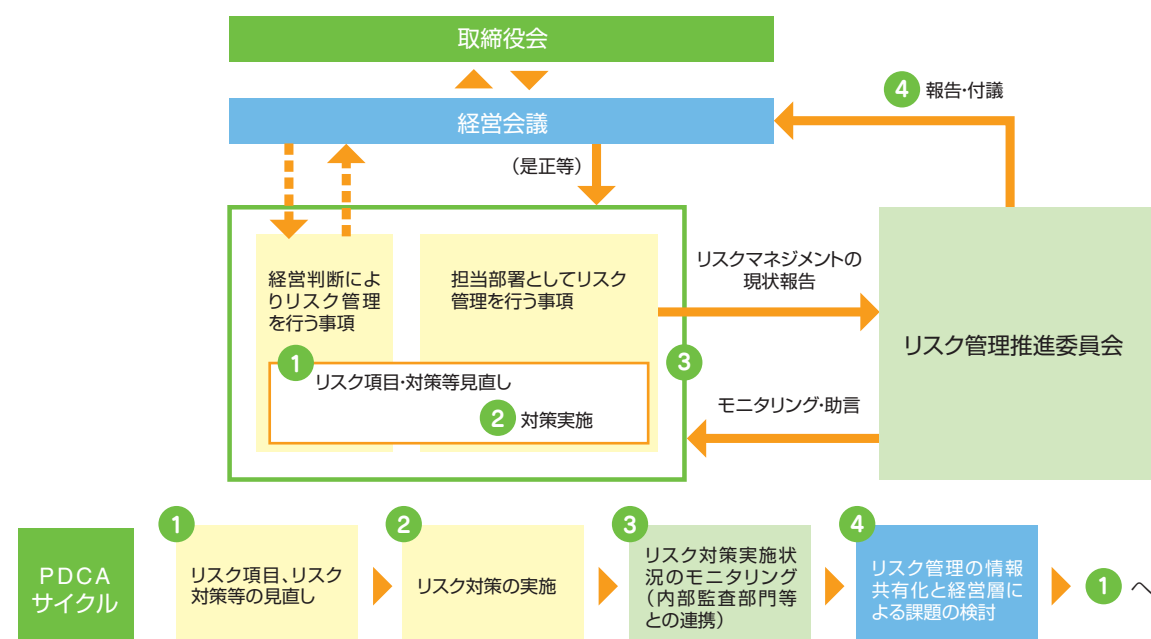
さらに民営化に伴い、高速道路関連ビジネスなどのリスクの特定・評価などに着手しました。

リスクマネジメント体制

NEXCO東日本では、事故・災害などの発生に備えて、交通管制部門を24時間体制にするなど、迅速かつ適切な対応ができる体制を整えています。業務執行上のリスクについては、担当部署において対策を講じつつ、経営に大きな影響を与えるリスクに関して経営会議で審議するとともに、「リスク管

理推進委員会」を設置し、PDCAサイクルに則ったリスクマネジメントの実施を支援しています。同委員会では、関係部署が複数にまたがる横断的な事項を中心に、経営上当面注視すべきリスク項目を特定し、これらの項目を主な対象としてモニタリングを実施します。

リスクマネジメント体制図



防災業務計画と防災業務の実施

高速道路を地震などの災害から守り、高速道路の社会的役割を果たすことを目的に「防災業務計画」や、その実施のため「防災業務実施細則」を定めてい

ます。これらに基づき、情報システムの整備やヘリコプターの運用による災害発生時の情報収集・提供のほか安全確保、復旧などを実施しています。

※防災業務計画:災害対策基本法の指定公共機関であるNEXCO東日本は、災害に強い道づくりに向けた「防災業務計画」を公表しています。

http://www.e-nexco.co.jp/company/law_ordinance/security_plan/

防災業務の概要

- 防災体制と非常参集
- 道路通行規制
- 応援協力体制
- 情報収集連絡体制
- 応急的な道路機能の確保など
- 災害への備え
- 広報活動
- 防災訓練および社内教育

防災訓練

本社では、首都直下型地震を想定した初期対応・情報伝達訓練を実施しています。また、各支社・事務所でも地震などを想定した訓練を行っています。



防災訓練

情報セキュリティ

情報セキュリティに関する規程を定め、対策活動を継続的に実施しています。

2008年度には、社内情報の持ち出し禁止ツールをはじめ、各種セキュリティツールをグループ全体で導入することと併せ、セキュリティ講習会も開催し、グループ全体の意識の向上を図り、内部情報の管理をより徹底しました。

2009年度においては、不正アクセス防止ツール（社内ネットワークへの内部および外部から不正な機器接続を遮断）を導入します。今後も、セキュリティ対策状況の確認や課題の把握に努めるとともに、グループ全体を対象としたセキュリティ研修を実施することにより、その水準をさらに高めていくこととしています。

環境

環境方針

NEXCO東日本は、環境への取り組みを経営の重要課題と位置付け、社会の責任ある一員として、地球環境の保全や循環型社会の形成に貢献するとともに、沿道の生活環境や自然環境の保全の取り組みを進めることにより、社会から信頼される企業を目指します。

(2007年7月制定)

環境行動指針

NEXCO東日本は、環境方針に基づき、以下の行動を行います。

I. 環境保全の取り組み

1. 地球温暖化防止への貢献

- 高速道路のネットワーク整備、ETCの普及促進、本線部の渋滞対策などによる交通の円滑化やのり面の樹林形成などにより、CO₂の削減に貢献します。

2. 循環型社会形成への貢献

- 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進、グリーン調達を推進することにより、循環型社会形成に貢献します。

3. 環境負荷の低減

- 沿道の生活環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- 自然環境に及ぼす影響の低減に努めます。
- 事業活動の全ての段階における環境負荷の低減に努めます。

II. 技術開発

- 持続的・効果的な地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

III. 環境経営の取り組み

1. 環境マネジメント

- 環境保全の状況を毎年度分析・評価することにより、取り組みを持続的・効果的に実施します。

2. コミュニケーション

- 環境マネジメントの結果を「CSRレポート」により公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。
- 地域の方々や自治体、国などと連携した社会環境活動に取り組みます。

3. 社員教育

- 社員教育を通じて、環境に係る社員の意識向上、企業風土の醸成をさらに高めます。

(2007年7月制定)

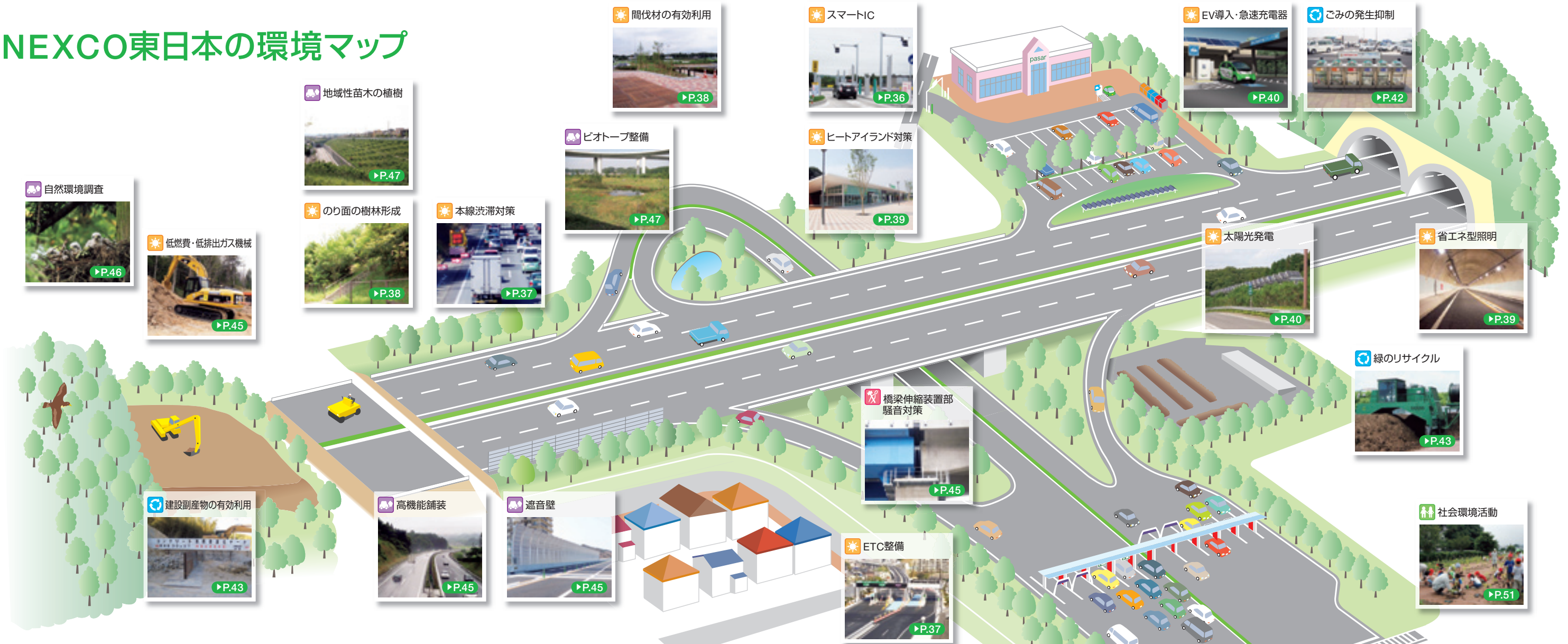
環境行動指針に基づき、着実に
環境保全の取り組みを実施します。

2006～2010年度の期間においては、以下の取り組みを行います。

環境行動指針		2006～2010年度の主な取り組み	2008年度の主な取り組み	ページ	
環境保全の取り組み	地球温暖化防止への貢献	高速道路のネットワーク整備	・新規開通延長：約274km ・4車線化完成延長：約36km	・新規開通延長：約34km（4区間） ・4車線化完成延長：約16km（3区間）	36
		ETCの普及促進	・ETCレーンの増設：約110レーン ・料金企画割引など(ETC利用率：73%)	・ETCレーン：31レーン （新規開通：10レーン、増設21レーン） （ETC利用率：約73%）	37
		本線の渋滞対策	・渋滞時速度回復情報、渋滞予測情報の提供、付加車線設置など、渋滞対策の推進(渋滞損失時間：440万台時間／年)	・本線渋滞損失時間：約374万台時間／年	37
		盛土のり面などの樹林形成	・盛土のり面の樹林化	・植樹面積：約54ha（新規開通区間） 約 9ha（営業中区間）	38
		省エネルギー・ヒートアイランド対策など		・省エネルギーと視認性に優れたトンネル照明 ・保水性・遮熱性舗装の採用 ・低燃費・低排出型車両の導入：123台 ・クリーンエネルギーの採用	39・40
	循環型社会形成への貢献	ごみのリサイクルの推進	・建設副産物(建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊など)のリサイクルおよび再生資源・環境物品などの調達を推進	・ビン、缶、ペットボトルのリサイクル率：約99%	42
		緑のリサイクルの推進		・リサイクル率：約90%	43
		建設副産物のリサイクルの推進		・リサイクル率：約97%	43
		グリーン調達の推進		・工事資材：42品目(58品目中)の調達 ・物品役務：129品目(179品目中)の調達	44

環境行動指針			2006～2010年度の主な取り組み	2008年度の主な取り組み	ページ
環境保全の取り組み	環境負荷の低減	沿道の生活環境に及ぼす影響の低減	・遮音壁の設置など環境対策の実施 ・高機能舗装率：68%	・遮音壁の設置延長：約7km ・高機能舗装率：約63% ・橋梁伸縮装置部騒音対策：4箇所	45
			・工事中における環境負荷の低減	・低騒音・低排出ガス対策型機械の使用	45
		自然環境に及ぼす影響の低減	・動物の移動路の確保や貴重植物の移植など ・周辺に見られる樹木の植樹などにより、動植物の生息・生育空間を創出	・地域性苗木による植樹：約15ha ・動物衝突事故防止対策：約37km（立入防止柵かさ上げなど）	47・48
技術開発	技術開発		・環境保全に関する技術開発の推進	・ユリ科植物の植栽マット工法の共同研究 ・「バイオマスガス発電」、「遮音壁を活用した太陽光発電」、「舗装の中温化」に関する技術公募	49
環境経営の取り組み	環境マネジメント	・事業に伴う環境関連データの分析・評価 ・CSRレポートの作成・公表	・2007年度の環境関連データを分析・評価し、CSRレポートを作成 ・分析・評価結果を現地へフィードバック	50	
	コミュニケーション	・地域と連携した社会環境活動の実施 ・清掃などボランティア活動の実施	・チームマイナス6%運動の取り組み ・地域と連携した清掃活動などの実施	50・51	
	社員教育	・説明会・研修の実施 ・オフィスの省エネ	・環境研修・CSRレポートキャラバンの実施 ・オフィスにおける省エネの目標設定と取り組み	51	

NEXCO東日本の環境マップ



高速道路ネットワーク整備

計画段階

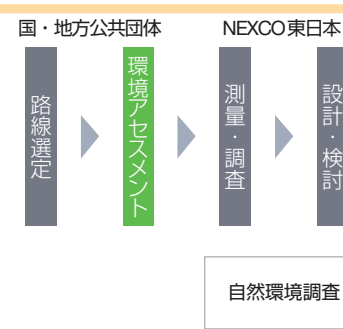
建設工事段階

高速道路管理・運営

地球温暖化防止への貢献

循環型社会形成への貢献

環境負荷の低減



のり面の樹林形成

間伐材の有効利用

スマートIC

省エネ型照明

低燃費・低排出ガス対策型機械

建設発生土の有効利用

建設副産物の有効利用

建設発生木材の有効利用

建設汚泥の有効利用

グリーン調達資材

遮音壁

高機能舗装

トンネル換気設備

生物多様性保全地域生態系配慮

自然環境の復元ビオトープ整備

のり面樹林の育成・管理

料金所渋滞対策 ETC整備

本線渋滞対策

省エネ型照明化

ヒートアイランド対策

太陽光発電 EV車両導入 急速充電器

緑のリサイクル

ごみの発生抑制

資源ごみのリサイクル

オフィスグリーン調達

遮音壁増設

高機能舗装化

騒音・振動低減

トンネル換気設備保守

動物事故対策

自然環境維持・追跡調査

・地球温暖化防止、循環型社会の形成、環境負荷の

低減に資するため、保有技術の活用や新たな技術開発に取り組みます。

・環境マネジメントを行い、その結果をCSRレポートにより公表します。

また、地域の皆さまと連携した社会環境活動に取り組み、社員の環境への意識向上に努めます。

技術開発

環境経営

地球温暖化防止に貢献します。

高速道路ネットワーク整備の推進、ETCの普及による料金所渋滞対策や本線渋滞対策を実施し、交通の流れを円滑にすることにより、車両からのCO₂排出の削減に貢献します。また、のり面の樹林形成を進めることにより、CO₂の吸収・固定を図ります。

高速道路ネットワーク整備による環境改善効果

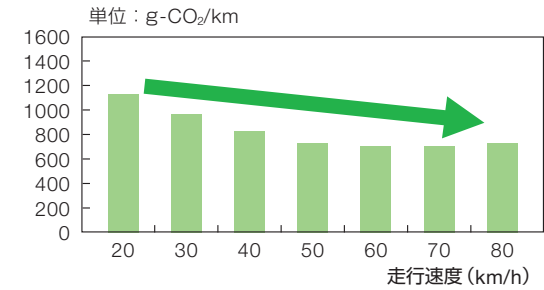
高速道路の整備により安定した速度での走行が可能となり、一般道路の利用に比べCO₂のほか、NO_xやSPMの排出量も削減されます。

●2008年度開通によるCO₂の削減効果

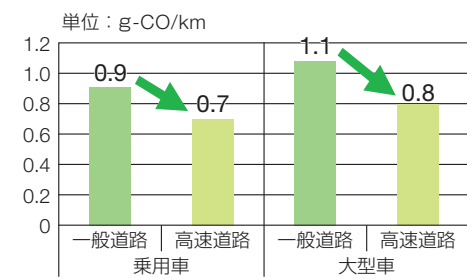
2008年度は、新たに北関東道、横浜横須賀道路および圏央道の4区間約34kmの高速道路ネットワーク整備を行いました。この結果、走行環境の改善や、一般道路の渋滞緩和などによってCO₂排出量が削減され、地球温暖化防止にも貢献します。

項目	2008年度に開通した高速道路ネットワーク整備によるCO ₂ 削減効果
CO ₂ 削減効果(推計)	約10万トン/年

走行速度とCO₂排出量の関係(大型車)



一般道路と高速道路のCO排出量の違い



○国土技術政策総合研究所「自動車排出係数の算定根拠」(2003年12月)、「自動車走行時の燃料消費と二酸化炭素排出係数」(2001年11月)より作成

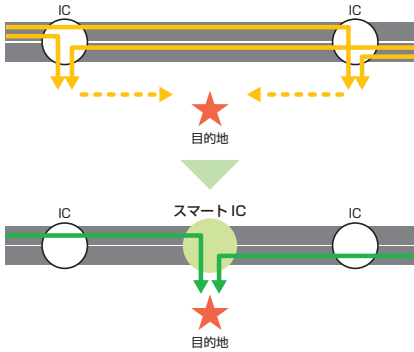
ETCの整備効果

●ノンストップによるCO₂削減効果

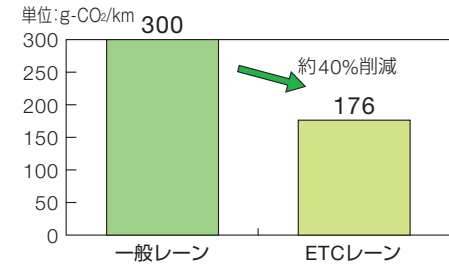
ETCを利用することで、料金所をノンストップで走行できるため、一時停止する一般レーンに比べCO₂排出量を約40%削減できます。

●スマートインターチェンジの効果

ETCを利用したスマートインターチェンジができることで、高速道路へのアクセス性が向上しCO₂の削減に貢献します。



一般レーンとETCレーンのCO₂排出量の違い(乗用車)



○「自動車走行時の燃料消費と二酸化炭素排出係数」(2001年11月)より作成

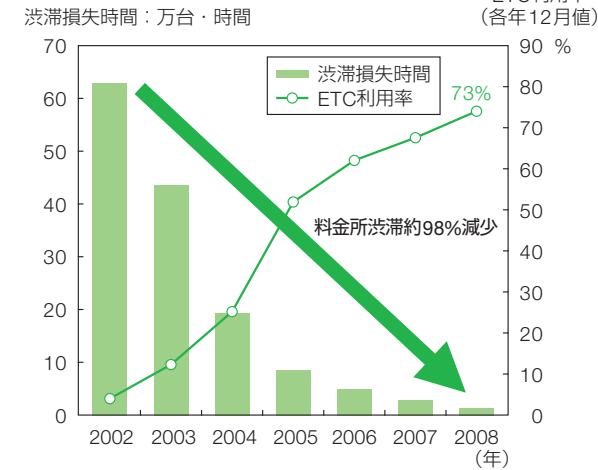


SA・PAに設置されたスマートインターチェンジ

料金所の渋滞緩和によるCO₂削減効果

2008年度は新たに31レーンのETC整備を行い、料金所付近における渋滞損失時間は、2万台・時間となり、2002年度に比べ料金所渋滞は約98%減少しました。この効果をCO₂の排出量に換算すると、年間約3,690トンの削減と推計されます。

料金所渋滞とETC利用率の推移



CO₂削減効果(推計)

項目	2002年	2008年 (2007年)	減少・削減効果 対2002年 (対2007年)
料金所付近の渋滞損失時間 (万台・時間)	63	2 (3)	▲61 (▲1)
CO ₂ 排出量(トン/年)			▲3,690 (▲60)

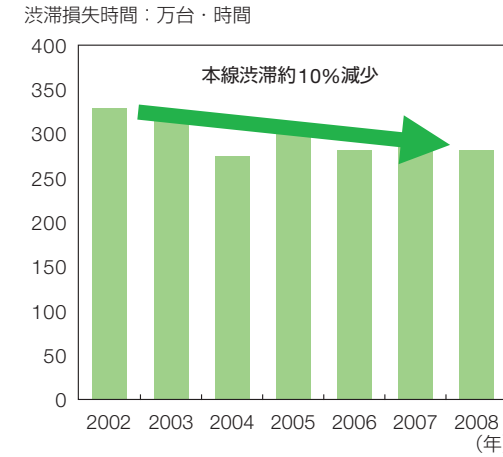


横浜横須賀道路 佐原本線料金所

本線の渋滞緩和によるCO₂削減効果

渋滞時の速度回復情報提供などの渋滞対策により、2008年の交通集中による本線の渋滞損失時間は、283万台・時間となり、2002年度に比べ本線の渋滞は約10%減少しました。この効果をCO₂の排出量に換算すると、年間約1,430トンの削減効果と推計されます。

交通集中による本線渋滞損失時間の推移



CO₂削減効果(推計)

項目	2002年	2008年 (2007年)	減少・削減効果 対2002年 (対2007年)
交通集中による本線渋滞損失時間 (万台・時間)	328	283 (294)	▲45 (▲11)
CO ₂ 排出量(トン/年)			▲1,430 (▲240)



速度回復情報提供



ボトルネック付近渋滞情報

盛土のり面などの樹林形成

2008年度は、新規開通路線において約54ha、営業中区間においても約9haの植樹を行いました。これにより、盛土のり面などの植樹面積は、2008年度末で約3,500haに達し、この植樹面積によるCO₂の吸収・固定効果は、年間約37,000トンと推定されます。



横浜横須賀道路 佐原IC～浦賀IC

道路緑地の効果

「道路緑地」の整備は、周辺の既存樹林とつながること、さまざまな生物の移動空間としての機能を果たすほか、消失した緑地の代替や周辺の生物の生育空間の質的变化を小さくする効果があります。



地上部を樹林化した常磐道 流山IC～柏IC

省エネルギーと視認性に優れた照明の採用

トンネル内の照明を従来の高圧ナトリウムランプから、「Hf（高周波型）蛍光ランプ」へ変更することで、自然な色合いで物を視認することができるとともに省エネにも貢献しています。

トンネル照明の使用電力削減量とCO₂削減量

項目	削減量(推計)
トンネル照明使用電力量	▲約1,560万kWh／年
CO ₂ 排出量	▲約8,700トン／年

2008年度に4車線化を行った磐越道では、明るさセンサーを用いて余分な明るさをカットして、電力量の削減（25％程度）を図る環境配慮型照明器具を設置しています。

●お手洗いのLED照明

通常の白熱灯や蛍光灯に比べ電力消費量の少ないLEDランプを採用しています。



高圧ナトリウムランプ(従来)

Hf（高周波型）蛍光ランプ(現在)



明るさセンサー

環境配慮型照明



LEDランプ

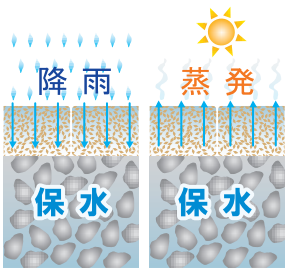
北関東道 笠間PA

ヒートアイランド対策

2008年7月にオープンした狭山PAなどでは、保水性ブロックなどのヒートアイランド対策を実施しています。また、東関東道酒々井PAなどでは、駐車場に植栽を行い日陰（緑陰駐車場）を作ること、駐車時の車内温度の上昇を抑えるなど、快適なエリア空間を提供します。

●保水性ブロック

店舗前の歩道には、雨水を浸透・保水する機能を有したブロックを採用しています。保水された水は歩道の温度上昇を軽減します。



保水性ブロック

圏央道 狭山PA

●緑陰駐車場

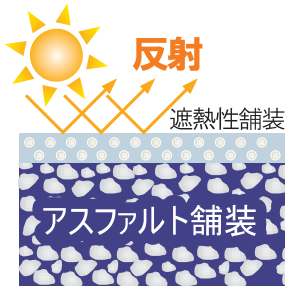
駐車場に植栽を行い日陰をつくることで、駐車時の車内の温度上昇を抑えます。



東関東道 酒々井PA

●遮熱性舗装

通常のアスファルト舗装では、太陽光の熱を吸収し、夏には50℃以上の高温になる場合があります。遮熱性舗装は、表面に太陽光を反射させる薄層の舗装を施すことで、温度上昇を軽減します。



COLUMN

緑の様々な活用

●間伐材の有効利用

NEXCO東日本では、国産間伐材をベンチ、ウッドデッキ、花壇の枠材などで使用しています。



ベンチ(北関東道笠間PA)



ウッドデッキ(圏央道狭山PA)



花壇の枠材(道央道)



樹木の支柱(圏央道)

●壁面緑化など

遮音壁や電気室建物の緑化を行っています。



遮音壁裏面の緑化(横浜横須賀道路)



電気室の屋上・壁面緑化(北関東道)

低燃費・低排出型車両の導入

業務用としてリースしている車両のうち、2008年度には「低燃費・低排出型」の車両を64台導入しました。
また、路面清掃や除雪車両などの中型、大型の作業車両のうち、2008年度には、排出ガス対策型車両を59台導入しました。



2008年度導入のハイブリッド車（業務用車両）

急速充電器と電気自動車の導入

NEXCO東日本では、電気自動車の本格的な普及促進に貢献するため、国が提案している「EV・pHVタウン構想」に先進的に取り組んでいる神奈川県内の高速道路において、2009年度に急速充電器（4基）の設置、および業務用車両として事務所に電気自動車（2台）を配置します。また、日比谷駐車場に電気自動車用の充電器を3基（200V：2基、100V：1基）設置しています。

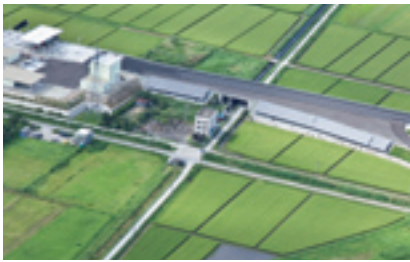


電気自動車（イメージ）

クリーンエネルギーの採用

太陽光、風力、バイオマスなどから生成されるエネルギーは、CO₂の排出削減に大きく寄与します。これらのエネルギーは、地球温暖化防止やエネルギー自給率向上にも大きく貢献するものです。

これまで「太陽光発電」や「風力発電」を導入しており、今後「バイオマスガス発電」などさまざまな技術の導入を検討していきます。



常磐道 山元IC
（太陽光発電：料金所に利用）



館山道 市原SA
（太陽光発電：お手洗い照明に利用）

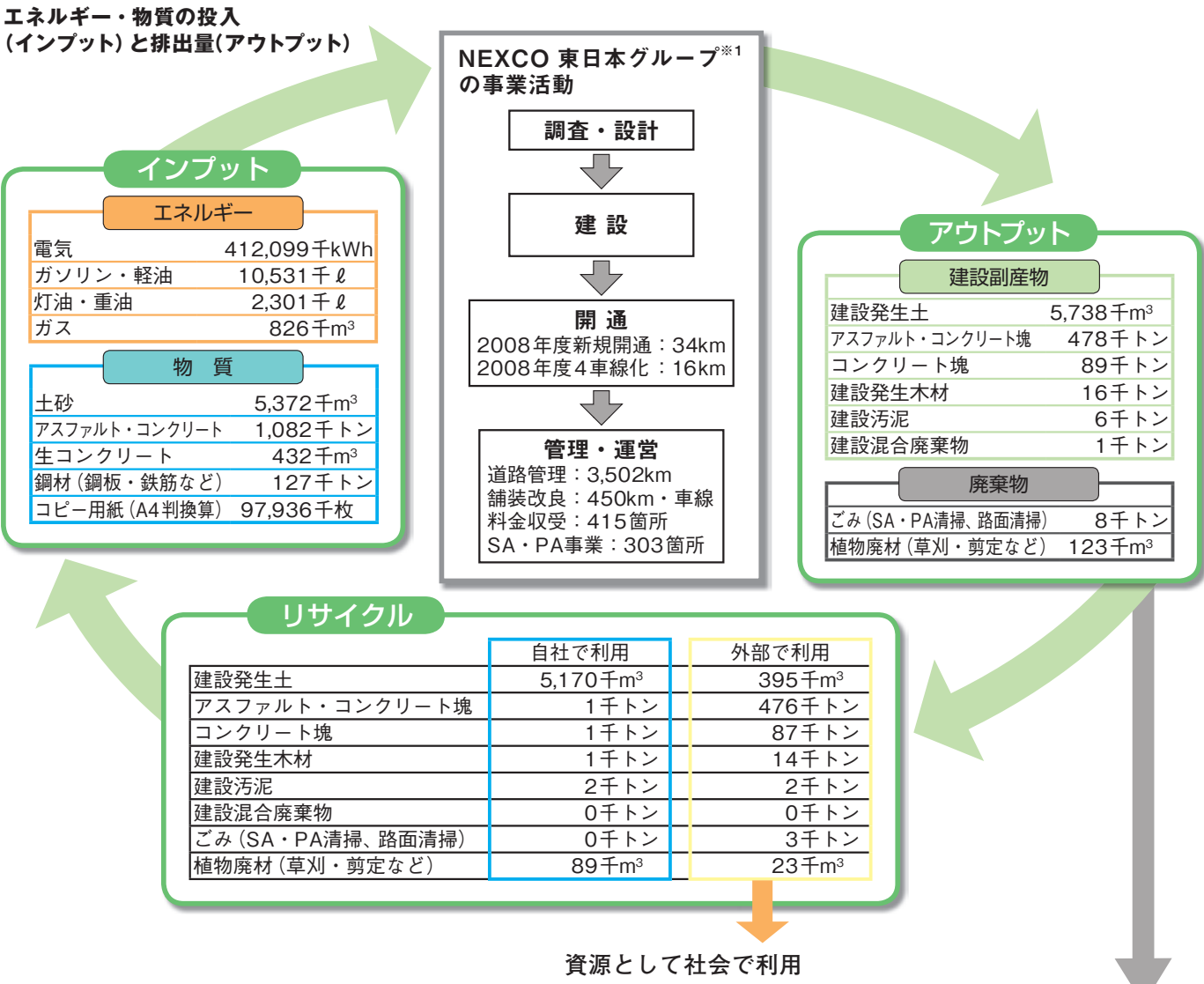


北関東道 波志江PA
（太陽光+風力発電：非常用照明に利用）

NEXCO東日本の事業に伴うエネルギー・物質の流れ(2008年度)

NEXCO東日本グループ^{*1}の事業におけるエネルギー使用は、トンネル・道路照明や事務室の照明などの電気、車のガソリンや執務室の暖房用灯油などの燃料です。また、高速道路の工事では主に土砂、アスファルト・コンクリート混合物、生コンクリート、鋼材を使用しています。

これら事業により排出された建設副産物、廃棄物（ごみ）については、可能な限り再生資源としてリサイクルを行い、循環型社会形成への取り組みを行っています。



※1:NEXCO東日本とNEXCO東日本グループ会社(24社)のうち、子会社(18社)のデータを集計
○エネルギー投入量：NEXCO東日本グループの2008年度事業を集計
○物質投入量：2008年度に完了した工事を対象に主要資材(土砂、アスファルト・コンクリート、生コンクリート、鋼材)を集計
○物質の排出量：2008年度事業を対象に建設リサイクル法に定められた建設副産物の他、SA・PAのごみ箱から回収されるごみ、路面清掃から回収されるごみ、および草刈・樹木剪定作業により発生する植物廃材について集計

焼却・減量、埋立処分		
	焼却・減量	埋立処分
建設発生土	—	173千m ³
アスファルト・コンクリート塊	—	1千トン
コンクリート塊	—	1千トン
建設発生木材	1千トン	—
建設汚泥	1千トン	1千トン
建設混合廃棄物	0千トン	1千トン
ごみ(SA・PA清掃、路面清掃)	4千トン	1千トン
植物廃材(草刈・剪定など)	11千m ³	—

COLUMN バイオディーゼル燃料(BDF)車両の使用

使用済みのてんぷら油から製造されたBDF^{*}を交通巡回車両や作業車両の燃料として試行的に使用しています。BDFは、植物から作られた燃料のため、燃焼によってCO₂を排出しても、大気中のCO₂の総量は増えないことから、地球温暖化防止に貢献する再生エネルギーです。

※BDF(Bio Diesel Fuelの略)とは、菜種油・大豆油といった植物由来の油や天ぷら廃食油などから作られる軽油代替燃料のことです。

このパトロールカーは
廃てんぷら油
で走っています。

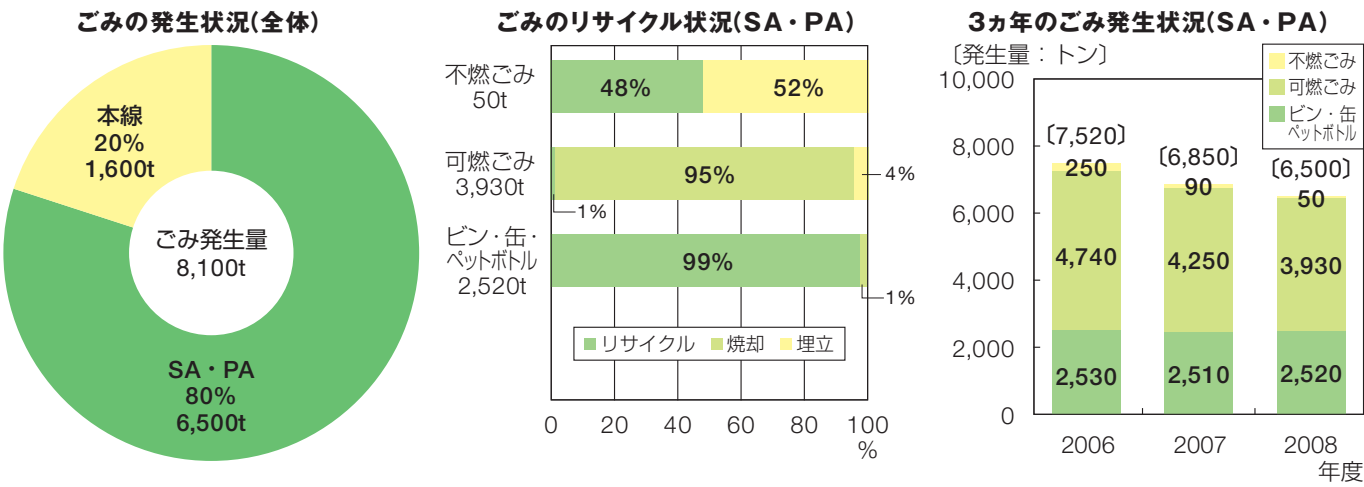


循環型社会形成に貢献します。

高速道路の管理運営・建設の事業活動において発生する建設副産物をはじめ、道路・休憩施設（SA・PA）で発生するごみや植物廃材のリサイクル、グリーン調達の実施など、循環型社会形成に向けて、積極的な活動を推進します。

ごみの発生状況

高速道路で発生する“ごみ”は、2008年度は約8,100トンとなっています。このうち、約80%はSA・PAで回収されるごみで、残りの約20%は、高速道路の路面清掃で回収されるごみです。また、2008年度のSA・PAの可燃ごみは2006年度に比べ約15%減量しています。



ごみのリサイクル状況

SA・PAではごみの種別に合わせたごみ箱の設置を行い、ごみのリサイクルに努めています。2008年度のビン、缶、ペットボトルのリサイクル率は、ほぼ100%を達成しています。引き続き、SA・PAから発生するごみの減量に取り組んでいきます。

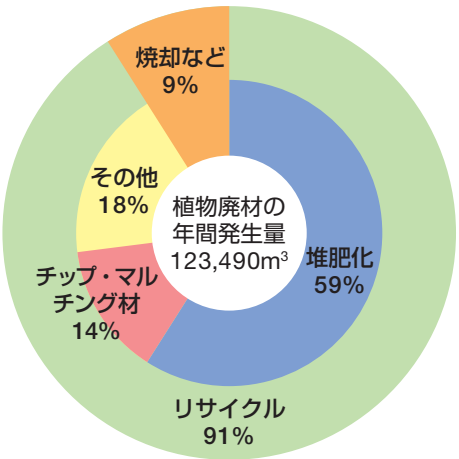
ごみの種別ごとに置かれているSA・PAのごみ箱



緑のリサイクルの推進

樹木の剪定や草刈などの作業で発生する植物廃材は、2008年度、約12万m³となっています。この植物廃材は、堆肥やチップ材として建設工事で再利用を行うなど、発生量の約90%で“緑のリサイクル”を行っています。

緑のリサイクル状況(2008年度)



緑のリサイクル(堆肥)



緑のリサイクル(チップ材)

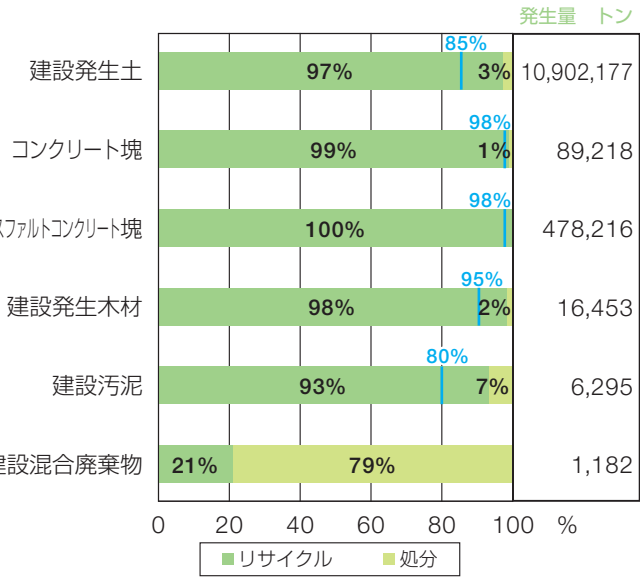


横浜横須賀道路 横須賀PA

建設副産物のリサイクルの推進

高速道路の管理運営・建設事業において発生する建設発生土、コンクリート塊、建設汚泥などの建設副産物のリサイクルに取り組んでいます。2008年度は、これらの建設副産物について、約1,100万トンのリサイクルに取り組みました（リサイクル率約97%）。今後も、建設副産物のリサイクルの推進に取り組めます。

建設副産物のリサイクル状況(2008年度)



※青字は「建設リサイクル推進計画2008」における2010年度目標値



コンクリート塊の再資源化（小割作業）

コンクリート塊再資源化後のストックヤード

COLUMN サービスエリアの廃棄物の発生抑制への取り組み ～割り箸からエコ箸へ～

2008年度から各SA・PAにおいて、生活環境や自然環境保全の取り組みを進めるため、割り箸から塗り箸（エコ箸）への変更を進めています。2008年度末で、導入率は約45%です。今後もエコ箸の導入を推進し、環境保全に努めていきます。

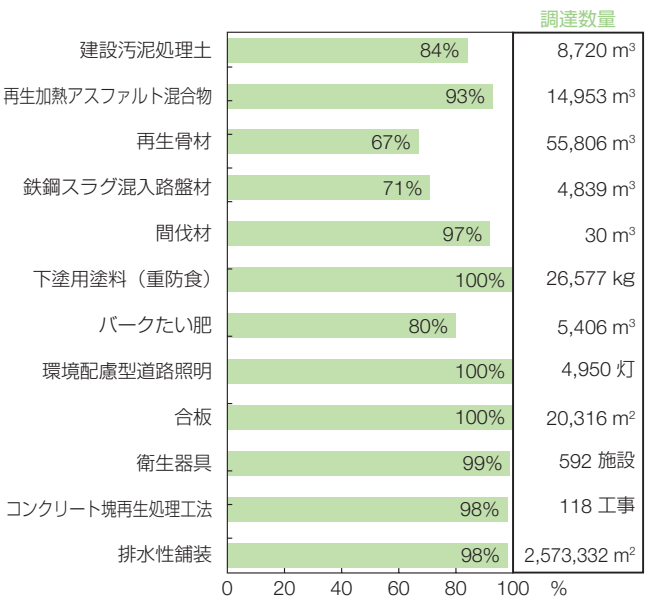


グリーン調達の推進

●工事における取り組み

2008年度は、特定調達物品58品目のうち、当社の事業に関連のある42品目の調達に取り組みました。

調達を実施した主な工事資材関連(2008年度)



●混合セメントの利用促進

地球温暖化対策、循環型社会の形成に向けた取り組みとして、2009年4月以降に完了する工事では、「混合セメント（高炉セメント、フライアッシュセメント）」と「低燃費型バックホウ」を使用した工事を『工事成績』において評価しています。2008年度の完了工事では約7.8万m³の混合セメントが使用され（右図）、これによるCO₂削減量は約6,500トンと推計されます。

項 目	混合セメントの使用によるCO₂削減効果
CO₂削減効果	約6,500トン

※セメントのLCIデータの概要(社)セメント協会より推計

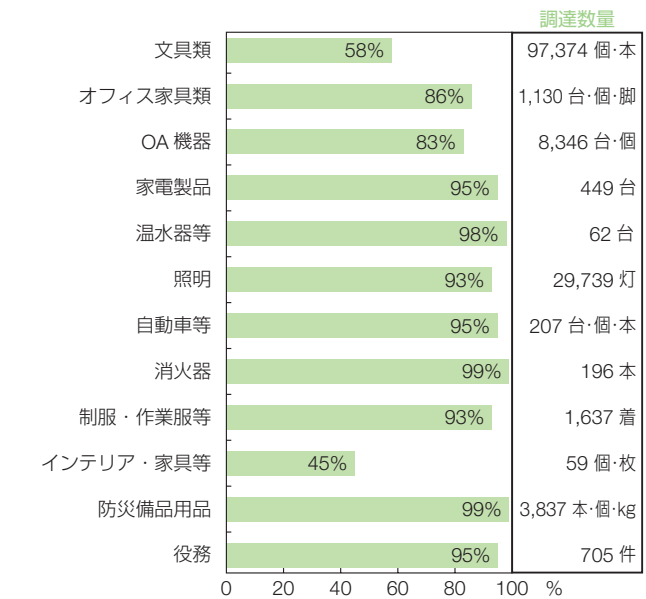
●低燃費型建設機械(バックホウ)の利用

2008年度にしゅん功した工事のうち低燃費型バックホウを使用した工事は184工事中61工事でした（右図）。

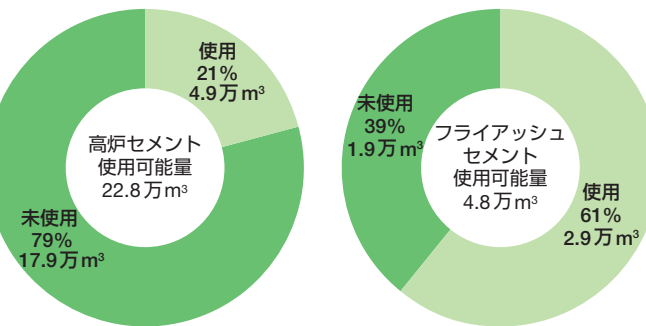
●オフィス活動における取り組み

2008年度は、物品、役務に係る特定調達物品179品目のうち、129品目の調達を行いました。

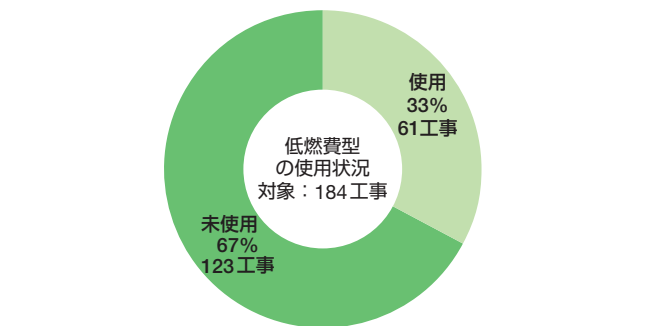
オフィス関連(2008年度)



混合セメントの使用状況(2008年度完了工事)



低燃費型バックホウの使用状況(2008年度完了工事)



環境負荷の低減に努めます。

沿道環境や自然環境に及ぼす影響の低減に努めます。
また、事業活動の全ての段階における環境負荷の低減に努めます。

沿道環境に及ぼす影響の低減

●遮音壁の設置

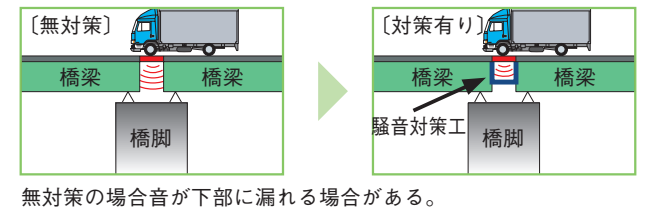
2008年度は、沿道環境の状況に応じて約7kmの区間に遮音壁を設置し、今後も、営業中区間ならびに建設中区間について、必要に応じ遮音壁を設置するなど、沿道環境の保全に努めます。

●高機能舗装の整備

交通事故防止や自動車騒音の低減を目的として、2008年度には、約450km・車線について高機能舗装に改良し、高機能舗装率は、約63%となりました。

●橋梁伸縮装置部の騒音対策

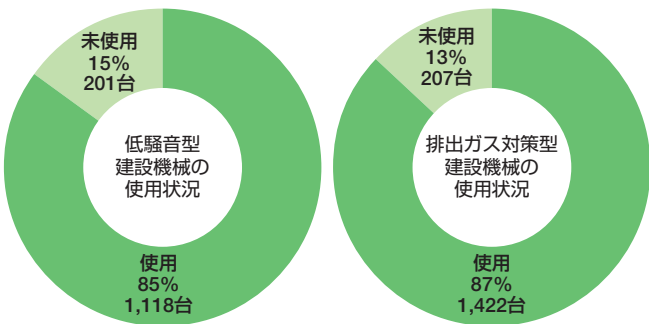
2007年度に共同開発した橋梁伸縮装置下部から発生する騒音の防止対策を4箇所実施しました。
(特願2007-335628)
○共同開発 (株)静科(大和市)



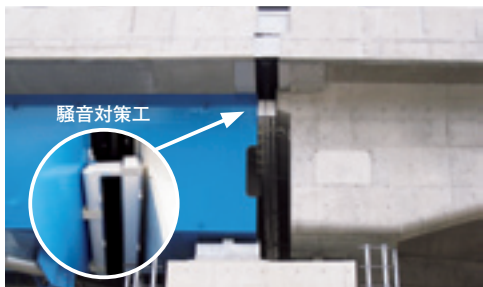
●工事中の環境保全対策

工事に伴う騒音、振動、排気ガスや水質汚濁などへの保全対策を行い、環境負荷の低減に配慮し、事業を進めています。

低騒音型・排出ガス対策型建設機械の使用状況



遮音壁の設置(横浜横須賀道路)



橋梁伸縮装置部騒音対策(横浜横須賀道路)



工事中の濁水処理槽

自然環境に及ぼす影響の低減

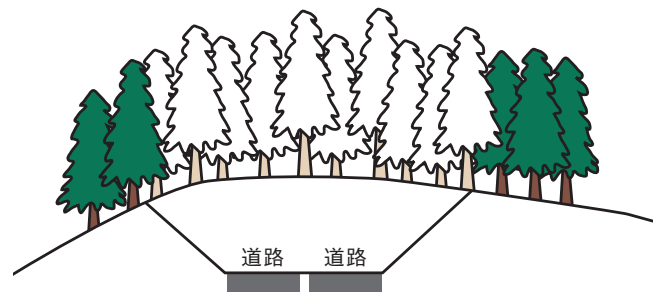
2010年10月に名古屋で開催されるCOP10（生物多様性条約会議）を前に、生物多様性保全の取り組みが紹介され、国内の機運も高まっています。「生物多様性」とは、「①生態系の多様性」、「②種の多様性」、「③遺伝子の多様性」とマクロからミクロまでさまざまなレベルがあります。

NEXCO東日本では、科学的な知見に立ち、生物多様性への影響を緩和する保全策を検討し、道路整備に反映させる「自然にやさしい道づくり（エコロード）」を進めています。

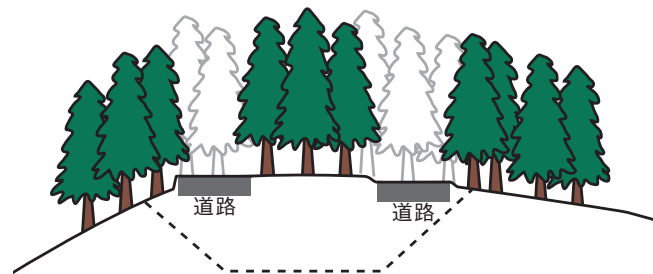
エコロードは、道路構造の見直し、既存林の保全、貴重植物の移植、両生類などの産卵池の整備、小動物の道路横断の阻害抑止、猛禽類の保護などさまざまな取り組みをしています。これら保全策は貴重な動植物はもとより、身近な自然や、小さな命も大切に考え、進めています。

●自然環境・景観への配慮

当初の計画



自然環境に配慮した道路構造の見直し

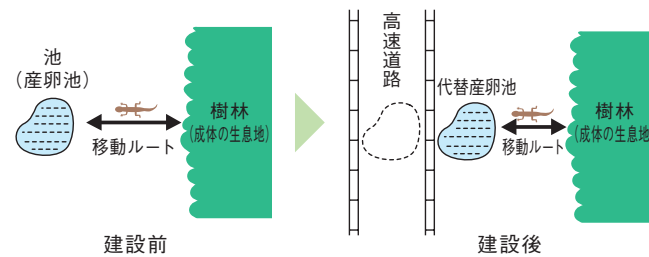


●小さいのちを大切にします



巣立ちを待つオオタカ

●代替産卵池の整備



トウキョウサンショウウオの一時繁殖池



千葉東金道路 山武成東IC～松尾横芝IC

●モニタリング

自然環境保全の取り組みは、建設が完了したら終わりではありません。その後、どのように推移しているかを把握・観察することも重要です。貴重な自然環境の保全は、経過年数に応じ、調査が行われています。得られた知見は、新たな自然環境保全の取り組みに反映させています。



多自然型調整池を整備した圏央道 あきる野IC

●水生生物の生息・生育環境の整備

道路整備では、周辺の河川、地形状況を調査し、そこに生息・生育する動植物への影響を把握し、さまざまな保全を行っています。道東道の建設中区間で

は、既存の沢に生息する「ニホンザリガニ」を保全するため、道路整備により消失する沢の復元を行っています。



着工前



沢の復元工事中



完成

●地域性苗木による植樹

自然環境が豊かな地域において道路を建設する場合、周辺地域に自生する樹木の種子を採取し、「地域性苗木」として育苗し、植樹しています。2008

年度は、北関東道などにおいて約15ha（約2万5千本）の植樹を行いました。地域性苗木による植樹は、2008年度末で約107ha（約15万本）となりました。



種子採取



育苗



植樹

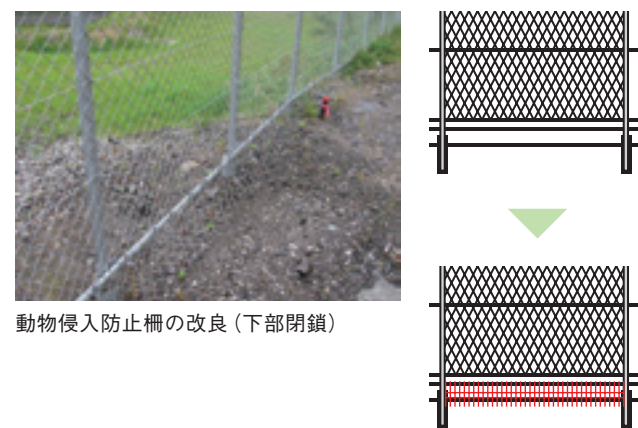
●動物衝突事故防止対策の実施

2008年度には、交通管理巡回により約18,000件の動物の個体が処理されました。このうち、全体の約40%は「タヌキ」で、次いで、鳥類が約30%を占めています。

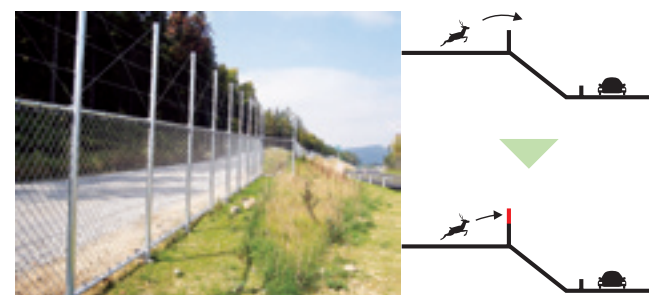
野生動物と車との衝突事故防止対策として、次の取り組みを行っています。

- 動物侵入防止柵の設置・改良
- 注意喚起のための標識設置
- 道路構造物を利用したけもの道の確保
- 交通管理巡回などによる動物の処理

このうち、車両との衝突が生じると重大な事故につながりかねない大型動物の侵入対策として、2008年度には、約37kmの動物侵入防止柵のかさ上げを行いました。今後も、定期的にデータを収集し適切な対応を図っていきます。



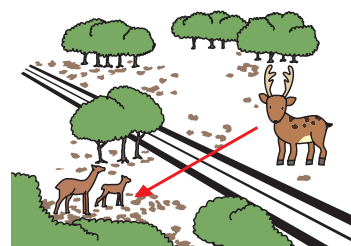
動物侵入防止柵の改良（下部閉鎖）



動物侵入防止柵の改良（かさ上げ）



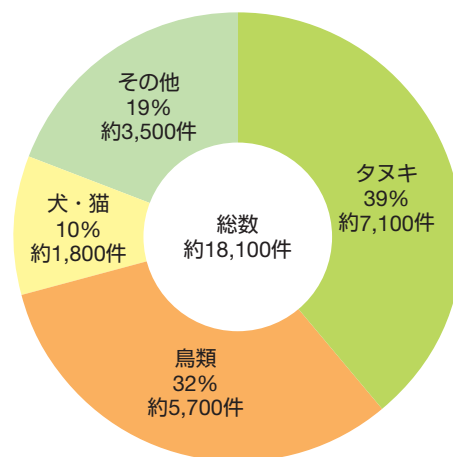
野生動物用横断Boxの設置
（けもの道の確保）



高速道路からの大型動物の脱出策



侵入動物の処理状況（2008年度）



環境保全に関する技術開発に取り組んでいます。

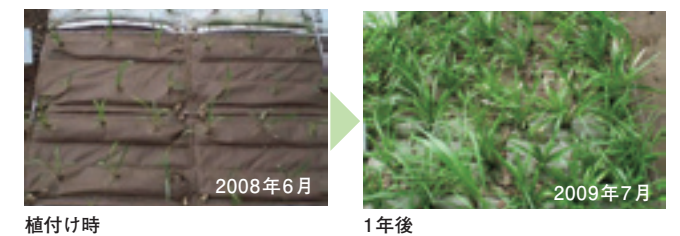
環境保全に関する技術開発

●新たな植栽工法の技術開発

「ユリ科植物（ヤブラン）と雑草を抑制する植栽マットとを組み合わせた製品・工法」の試験施工は、雑草の影響を受けず順調に生育しています。引き続き生育状況を観察し、現場への実用化に向けて取り組みます。

（特願2008-140196）

○共同研究 福田土木造園(株)（宇都宮市）



植付け時

1年後

●ツル系植物を用いた壁面緑化技術

この製品は、波状の「立体金網」と天然ヤシ繊維を利用した「登はんマット」を組み合わせ、ツル植物による早期緑化を可能としたものです。軽量なため、設置が容易となることが特徴です。高速道路の遮音壁や擁壁で使用しているほか、「愛・地球博」にも出展されました。

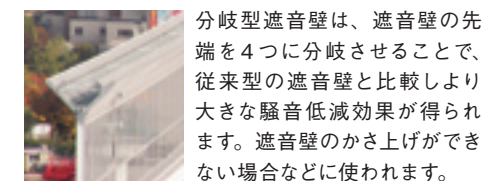
（特許第3602948）



施工直後

施工後1年

●その他の環境保全技術



分岐型遮音壁（特許第3583607）



ノイズリデューサー（特許第2652752）

ノイズリデューサーも、分岐型遮音壁と同様に、既設の遮音壁の上端に設置することで騒音低減効果が得られるものです。この製品は軽量でシンプルな構造が特徴です。



ユニット苗（特許第3590715）

ユニット苗は、座布団状の袋に充填した培土を中で育苗したもので、植穴を掘ることなく設置できる製品です。

●新たな技術開発への取り組み

NEXCO東日本では、地球温暖化防止や循環型社会形成を目指し、「バイオマスガス発電」、「遮音壁を活用した太陽光発電」、「舗装の中温化」に関する技

術の募集を行いました。今後、応募いただきました企業の皆さまと共同で研究を進めていきます。

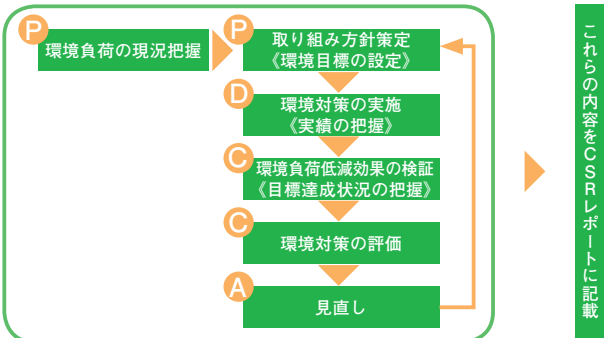
環境経営の取り組みを進めています。

環境保全の状況を毎年度、分析・評価することにより、環境マネジメントを持続的・効果的に実施します。その結果を「CSRレポート」により公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。また、社員研修などを通じ、環境に係る意識向上と企業風土の醸成を高めます。

環境マネジメント

環境に係る各種事業データを分析・評価し、その結果について現地に周知し、状況に応じた見直しや改善を行っています。また、複数の部署に関するテーマは、社内にワーキングを設置し、横断的に対応するような体制を構築しています。環境マネジメントの結果については、「CSRレポート」により公表していきます。

環境マネジメントの流れ



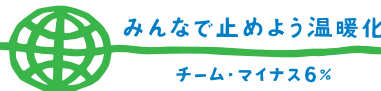
コミュニケーション

これまでも、高速道路のネットワーク整備やETCの普及促進などによる渋滞の緩和、道路のり面の樹林形成、グリーン調達などを通じて、地球温暖化対策や循環型社会の形成に取り組んできましたが、さらに推進するためには、高速道路をご利用いただくお客さまとの連携も重要と考えています。このため、CO₂排出削減の各種キャンペーンに参加・協賛し、皆さまに情報の発信を行い、CO₂排出削減に向けた取り組みを推進していきます。

●チームマイナス6%

地球温暖化防止のための国民運動『チームマイナス6%』に参加しています。

NEXCO東日本はチーム・マイナス6%に参加しています。



●社会環境活動

高速道路事業を行っていくためには、地域の皆さまのご理解とご協力が欠かせません。地域の皆さまと連携し、エコロードを進めることや、

地域で開催されるさまざまな活動などに積極的に参加します。



地域の方々と一緒に植樹活動（横浜環状南線）



社員によるクリーンキャンペーン（東北道 前沢SA）



地域と連携した盛土のり面管理（東北道 三本木地区）

社員教育

環境に関する研修や意見交換を行い、社員の意識の向上を図っています。また、建設副産物・再生資源の取扱いなど、関係法令に関するガイドラインを制定し、社員への周知を図っています。



社内環境研修

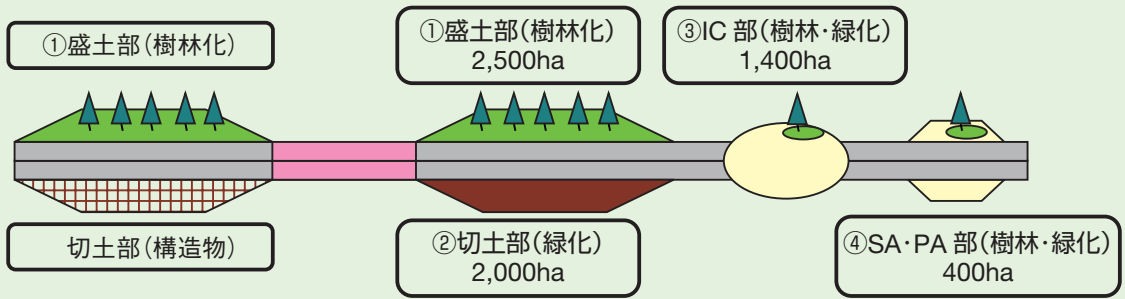


環境研修分科会討議

COLUMN 高速道路のネットワークが提供する緑の回廊

NEXCO東日本では、道路敷地面積の約34%に草や木などによる緑化を行っています（緑地面積：約6,300ha、【①+②+③+④】）。道路緑地の整備効果としては、周辺の既存樹林とつながることにより、さまざまな生物の移動空間としての機能を果たすほか、消失した緑地の代替や周辺の生物の生息・生育空間の質的变化を小さくするなど、生物多様性の保全や道路建設によるマイナスの

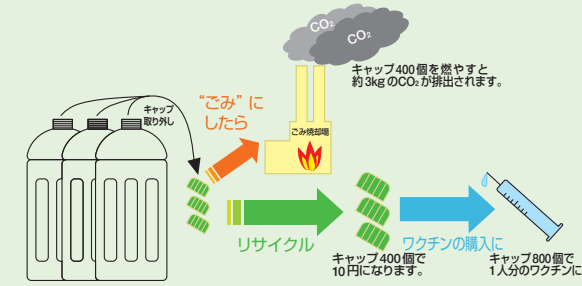
低減(保全)効果があります。また、緑化することで地球温暖化防止や周辺景観との調和に寄与します。



COLUMN オフィスにおける環境の取り組み

●エコキャップ運動

「エコキャップ運動[※]」は、ペットボトルのキャップを集めてポリオワクチンの購入に充てる活動です。現在、オフィスや一部のサービスエリア・パーキングエリアから回収されるキャップを集めて、エコキャップ運動を進める団体に届けています。これまでにNEXCOグループ全体で11,000人分のワクチンと約69トンのCO₂削減に貢献しています（2009年8月時点）。



※エコキャップ運動は「エコキャップ推進協会」が行っています。

●オフィスの省エネ活動

- ・冷、暖房温度の小さな設定
- ・時間外業務時の不要箇所電源OFF
- ・昼休み時間の一斉消灯
- ・時間外業務時の不要照明消灯
- ・会議室の消灯徹底
- ・電源OFF徹底
- ・長時間離席時はスタンバイモード
- ・電源OFF徹底
- ・使い終わったらフタを締める

社会



社会から信頼される企業を目指して

NEXCO東日本は、社会的責任を全うすることで、社会から信頼される企業を目指します。お客さま、地域社会、国際社会、取引先、社員との信頼関係を重視し、CSR活動に取り組んでいます。

お客さまとの関わり	P54
地域社会との関わり	P72
国際社会との関わり	P76
取引先との関わり	P77
社員との関わり	P78



●お客さまとの関わり

お客さまを第一に考え、お客さまの安全・安心・快適・便利なドライブを支えるため、ご利用しやすい料金設定や高速道路の維持管理、防災対策、交通安全対策などに努めています。また、「NEXCO東日本お客さまセンター」において、お客さまの声に応える体制を構築するとともに、バリアフリー化など施設の快適性向上、エリアコンシェルジェの配置などお客さまサービスの向上に取り組んでいます。

●地域社会との関わり

高速道路管理運営・建設事業を基盤とする当社にとって、地域社会との共生は重要な使命です。地域社会と良好な関係を築くために、地域交流イベントの開催・参加や、沿道の清掃活動への参加、現場見学会の開催など地域に密着した活動を行っています。

●国際社会との関わり

道路事業への参画、専門家の派遣、国際会議等で海外の道路整備に貢献しています。

●取引先との関わり

お客さまによりよいサービスを確実に提供するために、取引先に対する支援を行うなど、取引先との連携を深めています。

●社員との関わり

社員一人ひとりがやりがいを実感し、誇りをもって働けるよう、チャレンジ精神を大切にするとともに、充実した社員教育を実施しています。また、社員のメンタルヘルスケアなどにも配慮し、良好な職場環境づくりに取り組んでいます。

ご利用しやすい料金の設定によりお客さま満足の向上に努めています。

ETC（有料道路自動料金支払システム）を活用した各種時間帯割引、大口・多頻度割引に加え、当社独自の取り組みとして企画割引「ドラ割」や開通記念キャンペーンを実施し、お客さま満足の向上に努めています。

各種割引

ご利用の時間帯によって料金を割り引く各種ETC時間帯割引やご利用の頻度に応じて料金を割り引く大口・多頻度割引およびETCマイレージサービスなどを実施し、お客さまがご利用しやすい料金サービスを提供しています。また、国の政策に基づいた「生活対策」などの料金引き下げも実施しています。



※深夜割引は生活対策として50%割引へ拡充中

企画割引「ドラ割」

地元の観光協会や観光施設等と連携して地域の観光シーズンなどに高速道路の通行料金がお得になる企画割引「ドラ割」を展開し、多くのお客さまにご利用いただいています。

また、民営化以降初めてとなるETC以外の企画割引も展開しています。



開通記念キャンペーン

新たに開通した区間を一定期間お試しいただけるよう開通区間のご利用に割引やマイレージポイントのプレゼントを行う開通記念キャンペーンを展開しています。



お客さまに気持ち良くご利用いただける料金所を目指しています。

料金所では、多種多様な車両を5車種（軽自動車等、普通車、中型車、大型車、特大車）に判別し、現金、クレジットカード、ETCクレジットカード、ETCコーポレートカードなどのお支払方法により、正確かつ迅速な料金収受を実施しています。

その他にも、ETCレーンと現金等でお支払いをいただくレーンを交通量に応じて適切に運用しながら、お客さまのご利用状況を確認し、円滑な交通の確保に努めています。また、日ごろからお客さまに各種ご案内を行うとともに、ひとたび高速道路上で事故や災害が起こった場合には、お客さまの安全を確保するために、レーン閉鎖や情報提供を行っています。

正確かつ迅速な収受業務

複雑な車種判別、各種お支払方法、料金割引に的確に対応して、正確かつ迅速な料金収受に努めるとともに、お客さまが気持ちよく料金所をご利用いただけるよう、お客さまとの日ごろのコミュニケーションを大切にしています。



お客さまから通行料金を収受

交通状況に応じた適切なレーン開放

季節や時間帯、曜日等により絶えず変動する交通状況を過去の実績等により把握して、渋滞を発生させることのないよう、適切にレーン開放を行っています。

ETCレーンのモニタリング

ETCレーンでのお客さまの安全と円滑な交通を確保するために、レーンの状況や開閉バーの様子をモニターで24時間確認し、必要に応じ適切にお客さまへのご案内を行っています。



モニター確認によるお客さまご案内

情報提供と緊急時の迅速な対応

お客さまからの道案内や各種お問い合わせへの対応など、きめ細かなサービスに努めています。

また、高速道路上で事故、災害、雨や雪による通行止めなどが発生した場合には、速やかにレーンを閉鎖し、お客さまの安全を確保するとともに、各料金所に設置してある情報板での情報提供に加え、迂回路や通行止め・災害等に関するお問い合わせの対応を行っています。

各料金所にはAED（自動体外式除細動器）を設け、緊急時に備えています。



レーン閉鎖

COLUMN

ETCがもたらす効果

ETCは、料金所渋滞の解消による環境改善をはじめ、キャッシュレス化による快適性の向上や弾力的な各種料金割引による料金サービスの向上、管理費の低減などの効果をもたらします。

料金所渋滞の緩和による快適性向上

キャッシュレス化による利便性向上

多様な割引制度の導入による料金サービス向上

料金所での排気ガス低減による環境保全

管理費の低減

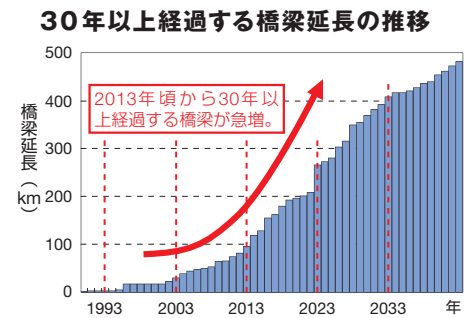
安全・安心な高速道路を目指して、24時間体制で効率的かつ効果的な維持管理に努めています。

道路の維持管理は、日常の維持管理と橋梁や各種設備などの道路の老朽化に対する中長期的な取り組みを、きめ細かく現状を把握し、補修の時期や方法を十分に検討したうえで、トータルコストの縮減も考慮しながら計画的に進めています。

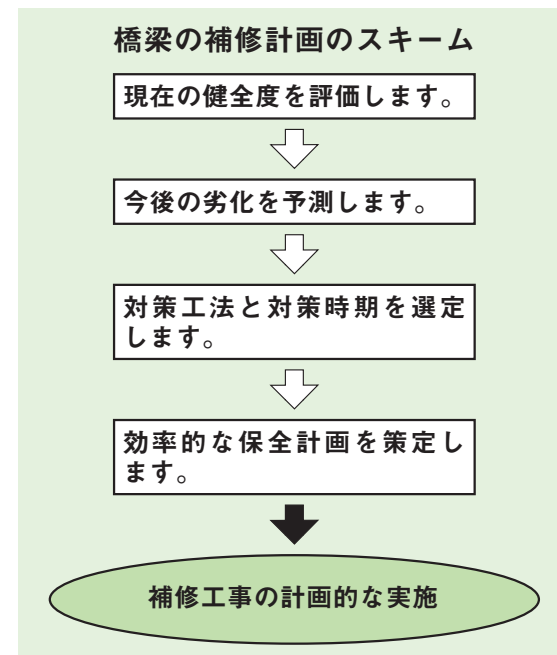
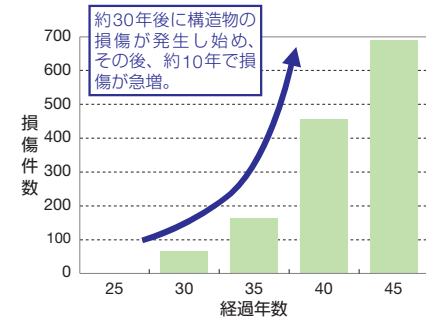
計画的な維持管理 ―橋梁の将来を見据えた老朽化に対する取り組み―

高速道路等の着実な整備が進む中、道路ストックの老朽化も進んでおり、損傷の発生が始まる建設後30年以上を経過する橋梁延長は、今後、急激に増加していきます。そのために、中長期的な劣化の予測や

適切な対策工法と対策時期の選定を行うことができるマネジメントシステムを構築して、効率的な橋梁の保全を計画的に実施していきます。



橋梁の損傷件数の推移（関東支社管内管理事務所の例）



橋梁の補修工事

いつでも安全に安心して高速道路をご利用いただけるよう計画的に補修工事を実施しています。



伸縮装置の取り替え



床版の補修



コンクリート片はく落防止対策



橋梁の塗り替え塗装

日常の維持管理

お客さまがいつでも安全・安心に高速道路をご利用いただけるよう、NEXCO東日本グループ一体となって24時間体制で、路面や橋梁、トンネル、道路施設

などの状況を日々把握し、路面やトンネルなどの清掃・補修、草刈や樹木の剪定、交通事故や災害による復旧作業を実施しています。

●点検

路面や橋梁、トンネル、道路施設などの状況を日々把握し、緊急性・重要性を考慮した作業計画を立案します。



のり面



橋梁



トンネル
(高速クラック計測車)



トンネル換気設備

●清掃



高速清掃 (50km/時)

2008年度に技術開発された交通規制無しで清掃作業を行える高速清掃車を導入して、トンネル照明の清掃作業を実施しています。

●植栽管理



草刈剪定

本線に隣接した路肩、切盛土のり面の草木を刈り取る作業を実施しています。

●補修



路面の補修

路面に生じた局所的な小穴（ポットホール）の補修を実施しています。



舗装の打ち替え

計画的な補修
舗装のわだち量やひび割れなどの状況を把握して、効率的で計画的な舗装工事を実施しています。

●設備保守



トンネル設備保守作業

非常用設備を始めとしたトンネル内諸設備の機能保持に努めています。

●事故復旧



ガードレール取り替え

損傷を受けたガードレールなどを新しい材料に取り替える作業を実施しています。

24時間・365日、高速道路の安全を見守り お客さまの安全・快適なドライブをサポートします。

交通管理巡回などにより、刻々と変化する道路状況・交通状況を把握し、道路交通情報の迅速な提供や、異常事態への対応により、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。また、24時間体制でお客さまの声にお応えする体制を構築しています。

交通管理巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞発生の有無などの交通状況、落下物の有無などの道路状況、気象状況などの情報を収集しています。



交通管理隊

また、異常事態が発生した時には現場へ急行し、落下物の排除、交通警察や消防機関とともに事故対応、故障車などに対する援助などを行います。

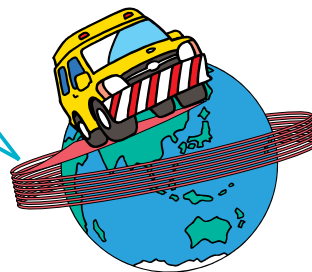


交通管理パトロール

2008年度実績

落下物などの処理数	約114,200件
交通管理巡回距離	約19,100,000km(地球約477周)

地球
約477周／年



事故発生時の対応

交通管制

道路管制センター内にある交通管制室では、管区警察局高速道路管理室とともに、異常事態の有無、道路状況、気象状況などの情報を収集し、お客さまに提供しています。異常事態発生時には、現場の交通管理隊などに対し、事態の処理に関して適切な措置をとるよう指示するとともに、必要に応じて消防車、救急車などの出動要請、他の道路管理者、河川管理者、関係自治体への連絡も行っています。



交通管制室

道路交通情報の提供

本線情報板やハイウェイラジオで走行中のお客さまにリアルタイムの情報を提供しているほか、サービスエリア・パーキングエリアやインターネットでも道路交通情報を提供しています。

●本線情報板

高速道路を走行されるお客さまに、事故や落下物、通行止めや渋滞などの道路交通情報を提供しています。

	インターチェンジの手前に設置されています。
	ジャンクションの手前に設置され、進行方向の道路ごとの道路交通情報を提供します。
	主要インターチェンジまでの所要時間を表示します。
	サービスエリア・パーキングエリアの混雑状況を表示します。

●ハイウェイラジオ

高速道路に沿って設置したアンテナからAMラジオ放送(1620kHz)を通じて5分更新で道路交通情報を提供しています。



●インターネットによる情報提供

NEXCO東日本が運営するドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」において、全国の高速道路の通行止め情報などを提供しています。

<http://www.driveplaza.com/>

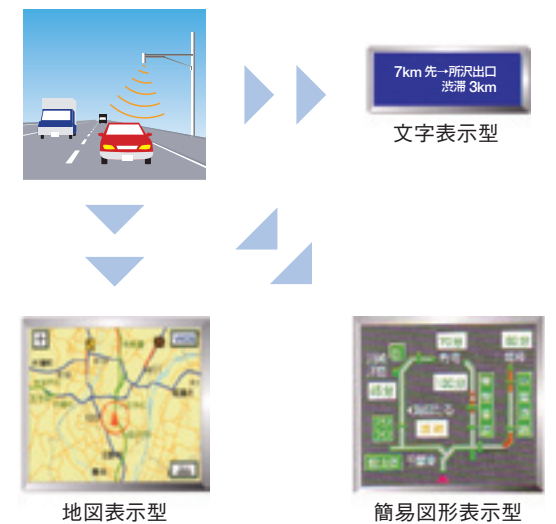
携帯電話専用サイト「ドラぷらモバイル」では、高速道路料金、SA・PA情報などに加え、詳しい道路交通情報(交通状況マップ、通行止め解除メールなど)がご覧いただける新コンテンツ「ドライブトラフィック」を2009年6月より運用開始しました。

<http://m.driveplaza.com/>

※道路交通情報は(財)日本道路交通情報センター(JARTIC)の情報に基づき提供しています。

●VICS(道路交通情報通信システム)

道路上に設置したビーコン(情報送信装置)やFM多重放送により、VICS対応の機器をご利用のお客さまに渋滞情報、所要時間情報、交通規制情報などの道路交通情報を(財)道路交通情報通信システムセンターを通じてリアルタイムに提供しています。



●サービスエリア・パーキングエリアでの情報提供

サービスエリア・パーキングエリアではハイウェイ情報ターミナルや掲示板、インフォメーションで道路交通情報を提供しています。



●NEXCO東日本お客さまセンター

2007年3月に開設した「お客さまセンター」を開設しました。24時間・365日、お客さまからのお問い合わせにお応えしています。

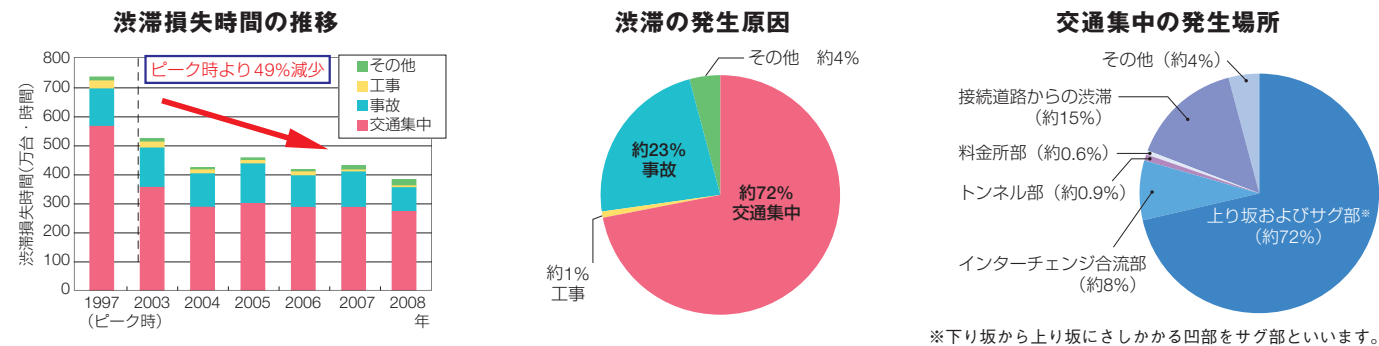
高速料金やETC割引、 交通情報など、お気軽に お問い合わせ下さい	0570-024-024 (24時間) (24時間)	PHS・IP電話の お客さま： 03-5338-7524
---	--------------------------------------	---

渋滞緩和のため、さまざまな対策に取り組んでいます。

渋滞の推移と主な原因(2008年)

2008年の渋滞損失時間は、各種の渋滞対策の実施によって、ピーク時の5割程度にまで減少しました。渋滞原因の約7割が交通集中によるもので、このう

ち、上り坂およびサグ部※が約72%、インターチェンジ等の合流部が約8%となっており、料金所渋滞はETCの普及によりほぼ解消しました。



上り坂およびサグ部での渋滞対策【交通集中渋滞の約72%】

無意識に起こる速度低下により発生する上り坂およびサグ部の渋滞に対して、渋滞の先頭付近での速度回復情報提供などの対策を実施しています。その結果、2008年の全渋滞損失時間は374万台・時間となり、ガソリン価格高騰の影響等も加わり、前年426万台・時間を大幅に下回りました。また、道路構造の改良として、付加車線の設置などを行っています。



速度回復情報提供の例



「500m先渋滞終了」



「速度回復願います」

渋滞の先頭付近での情報提供



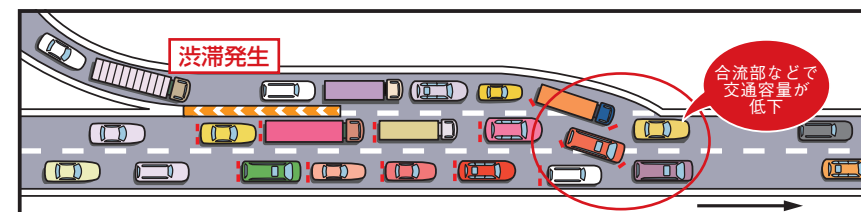
渋滞の先頭付近



渋滞の先頭から1km手前

インターチェンジ合流部での渋滞対策【交通集中渋滞の約8%】

インターチェンジなどの流出入車両による交通の乱れなどが原因で発生する渋滞に対して、加減速車線を延伸する事業を行っています。



事業実施中の渋滞対策(道路構造の改良)

東北道(2010年度完成予定)

- 加速車線の延伸 矢板IC(上り)

関越道(2011年度完成予定)

- 付加車線の設置 高坂SA(上り)
- 付加車線の設置 花園IC(上り)
- 加速車線の延伸 渋川伊香保IC(上り)
- 減速車線の延伸 本庄児玉IC(上り)

雪や災害に強い道づくりに取り組んでいます。

雪氷対策

当社が管理する道路のうち、年間1m以上の降雪がある重雪氷地域は全体の約6割、延長は2,060kmに及びます。2008年度1シーズンでの、のべ雪氷作業延長は約466,000km(地球を約11周に相当)になりました。

これらの雪氷作業をより効率的に行うために、一部地域においては、「GPSを利用した雪氷車両運行システム」を導入するなど新技術の活用に取り組んでいます。

また、地ふぶきなどの視界不良が頻発する区間では、視認性を確保するために防雪柵・防雪林や自発光スノーポールなどを設置しています。その他、高速道路情報サイトでの情報提供を行うなど、冬季の交通安全に積極的に取り組んでいます。



除雪作業



凍結防止剤散布作業



防雪柵



自発光スノーポール



雪氷車両運行システム

GPSの活用により各雪氷作業車両の位置をリアルタイムに把握し、迅速かつ効率的に作業指示を行うための支援システムです。



雪道情報の提供

ドライブ旅行の情報サイト「ドラぶら」では、交通情報のほか、ライブ画像が見られる「雪道情報」(冬季限定)を提供しています。

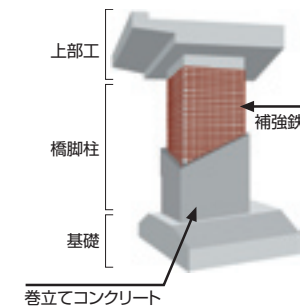
<http://www.driveplaza.com/>
<http://m.driveplaza.com/>

防災対策

災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強などを進めています。また、災害の発生に備えて防災通信システムを配備しています。



橋脚の耐震補強(施工後)



●橋脚の耐震補強率

	2008年度	2010年度(目標)
耐震補強率	92%	100%

※2009年度以降に完了する箇所全てで工事着手済み



防災通信システム

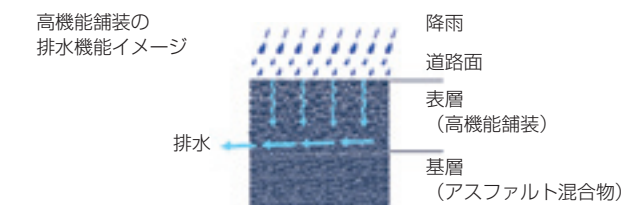


高速道路の安全性を高めるための活動を行っています。

安全で円滑な交通を確保するため、さまざまな安全対策を通じて走行環境の向上を図っています。また、不正な通行をする車への毅然たる対処や、交通安全啓発活動の推進により安全性の向上を図っています。

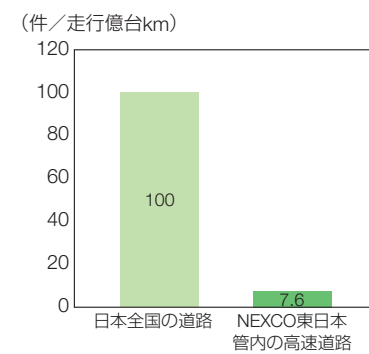
交通安全対策

自動車専用道路である高速道路は安全性が高く、死傷事故率は、日本全国の道路の約13分の1となっています。NEXCO東日本では交通事故を防止するため、道路の機能向上に努めています。例えば、高機能舗装を採用することにより雨天時の走行環境を改善し、高視認性区画線や自発光デリニエーターにより夜間の走行環境を改善させています。また、事故防止のための中央分離帯防護柵の強化、導流レーンマーク、逆走防止のための路面標示の改良、逆走防止装置の設置、暫定2車線区間の車線逸脱防止のための凹凸型路面標示、大型動物の侵入防止対策なども実施しており、安全性の向上を図っています。



高機能舗装は、従来の密粒度舗装よりも空隙が多いため、排水機能や騒音低減効果に優れており、高速走行時の安全性の向上につながります。新たに建設する高速道路や、舗装改良を行う箇所でも全面的に採用しています。

死傷事故率比較(2008年1月～2008年12月)



高機能舗装



強化型防護柵(中央分離帯)



夜間事故対策
(自発光デリニエーター)



逆走防止装置



凹凸型路面標示
暫定2車線区間の車線逸脱防止対策(凹凸型路面標示)



導流レーンマーク



大型動物侵入防止対策

高速道路ヒヤリマップ

ドライバーの皆さまに、適切な速度で特に注意して運転していただきたい箇所、注意内容をまとめた「気をつけて！高速道路ヒヤリマップ」や、主な渋滞発生状況・発生原因等を掲載した「渋滞ポイントマップ」をドライブ旅行の情報サイト「ドラぷら」に掲載しています。

<http://www.driveplaza.com/traffic/map/>



気をつけて！高速道路ヒヤリマップ

交通安全啓発活動

高速道路を運転する際の注意点や、交通法規の遵守をポスター、チラシ、ホームページなどへ掲載するなど、さまざまな交通安全広報を実施しています。また、警察や地元の安全協議会などと協力して、インターチェンジなどで交通安全キャンペーンを展開し、安全運転を呼びかけています。



交通安全啓発活動

法令等違反車両取り締まり

道路を通行することができる車両諸元の最高限度値や、長大トンネルなどを通行する際に積載することができる危険物などは、法令等で定められています。これらの法令等違反車両の指導取り締まりを、入口料金所などで実施しています。



法令等違反車両の取り締まり

不正通行対策

「不正通行は許さない」という毅然たる姿勢で対策に取り組んでいます。不正通行対策本部を設置し、不正通行者を特定するための不正通行監視カメラや一般レーンの開閉バーの増設、警察への通報・捜査への協力など対策の強化を図っています。



不正通行監視カメラの映像

技術開発・品質確保に取り組んでいます。

NEXCO 東日本は、高速道路の建設から管理運営までを一体的に実施することにより培ってきた豊富な技術とノウハウを活かして業務を行うとともに、より安全・快適にご利用いただける質の高い高速道路のための技術開発に取り組んでいます。また、新たな調達方法の導入により、コストの削減と品質の向上を図っています。

技術開発の取り組み

「安全性・快適性の向上」、「事業の効率化」、「周辺環境ならびに地球環境保全」のための技術開発に取り組んでいます。

2008年度には、キャビテーション技術[※]を活用したトンネル照明灯具を清掃する車両を実用化し、作業時間や規制時間を大幅に削減しました。

※NEXCO3社と(株) 高速道路総合技術研究所(NEXCO総研)の共同開発



実用中の高速清掃作業の状況

拡大写真



実物大の試験が可能な移動載荷疲労試験機

TIネットワーク(技術提案の受付窓口)の活用

2008年度は、誤進入対策やバイオマスガス発電等、14項目の技術の募集を行い新しい技術の共同開発を進めました。

また、TIネットワークに提案のあった「新素材を用

いた橋梁伸縮装置の防音構造[※]」は、現地での試験施工が完了し、橋梁のジョイントからの騒音抑制効果が確認できました。

<http://www.e-nexco.co.jp/bids/tinet/>
※特願2007-335628



新素材を用いた橋梁伸縮装置の防音構造



橋梁設置状況

品質の確保

資材・施工に関する独自規格の見直し、発注者・施工者・設計者の円滑な意思疎通のための三者協議制度の導入、不定期検査の全面導入などの新たな品質確保の取り組みを実施しています。



舗装路面の平坦性確認試験



コンクリートの圧縮強度試験



コンクリートの非破壊強度確認試験

最適調達推進の取り組み

民間企業の最新の技術力を活用することが可能となる新しい調達制度を構築するなどして、価格と品質

で総合的に優れた調達を推進しています。



資材を直接調達(支給前の検査状況)



入札前の技術提案(コンクリートの養生方法)を採用した工事

緊急時にも迅速・適切に対応できるよう、ヘリポートや緊急入退出路の設置を進めています。

高速道路で発生した事故への対応や、地域社会の救命活動をサポートするために、「救命活動支援ヘリポート」や「緊急入退出路」を設置しています。また、関係機関との訓練を継続的に実施し、万全の体制を整えています。

ヘリコプターを活用した救命活動支援

災害発生時に負傷された方々の速やかな搬送や迅速な災害対策の実施のため、北海道・宮城・福島・群馬など14カ所のサービスエリア・パーキングエリアにヘリコプターが離着陸するための「救命活動支援ヘリポート」を整備しています。関係機関とともに、離着陸訓練や負傷者の収容訓練などを実施することや、本線上への離着陸を想定し、「高速道路の離着陸難易度マップ」を作成するなどの支援を行っています。



ヘリポートにおける離着陸訓練

●救命活動支援ヘリポート整備状況

都道府県名	道路名	サービスエリア・パーキングエリア
北海道	道央道	輪厚PA（下り）
北海道	道央道	岩見沢SA（上り）
青森	東北道	津軽SA（下り）
岩手	東北道	前沢SA（下り）
宮城	東北道	長者原SA（上り）
宮城	東北道	泉PA（下り）
福島	東北道	安積PA（上り）
福島	磐越道	五百川PA（下り）
福島	磐越道	磐梯山SA（上り）
茨城	常磐道	守谷SA（上り）
群馬	関越道	赤城高原SA（下り）
群馬	上信越道	横川SA（上り）
千葉	館山道	市原SA（上り）
新潟	磐越道	阿賀野川SA（下り）

緊急医療のサポートとして緊急入退出路を整備

救急車による搬送をサポートするために、緊急医療施設に近接して緊急車両専用の緊急入退出路を設けています。一分一秒でも早く治療を受けることが救命率の向上につながるため、高速道路の利用により、一般道の渋滞や積雪などの影響を避け、安静かつ迅速な搬送と広域緊急医療体制を構築することが可能になります。

例えば青森道に整備された退出路により、青森県立中央病院へ60分以内に到達可能な方々が22万人増加しました。



緊急入退出路

●緊急入退出路の整備状況

緊急入退出路…主に緊急医療関連車両のための緊急開口部

道路名	区間	上下線	設置箇所 (KPまたは施設名)	設置年度	搬送医療施設名	月当たり利用回数 (2008年度平均)
山形道	山形北～山形JCT	上り	43.5	2002	・山形県立中央病院	56
青森道	青森中央～青森東	下り	688.3	2004	・青森県立中央病院	14
長野道	豊科～麻積	上り	47.3	2005	松本市 ・信州大学医学部 付属病院 ・松本協立病院 ・相澤病院 安曇野市 ・豊科赤十字病院	13
長野道	豊科～麻積	上り	40.5	2007	・安曇野赤十字病院	7
札幌道	手稲～銭函	上下	金山PA	2007	・道立子ども 総合医療・療育 センター	1
日東道	新発田～中条	上り	31.5	2008	新発田病院	- ※
秋田道	秋田中央～秋田北	上り	太平山PA	2008	秋田大学医学部 附属病院	- ※

※2009年3月利用開始

個性的で、快適・安心のサービスでお客さまをおもてなしします。

NEXCO東日本のサービスエリア・パーキングエリアは、全303カ所。バリアフリー化の推進や「礎づくり」「華づくり」といったサービスの向上に努めています。

施設の快適性向上

全てのお客さまに快適にご利用いただけるサービスエリア・パーキングエリアを目指して、バリアフリー化を進めています。施設の段差の解消をはじめ、身体障がい者用駐車場、車椅子や筆談ボード、緊急時のためのAED（自動体外式除細動器）などを設置しています。トイレは、和式便器の洋式化、女性用トイレの便器数増設、温水洗浄便座・温水対応自動水栓の設置を進めているほか、ベビーシートや小型手洗い器などを備えた大型ブース（男性・女性トイレ）、子供用小便器（男性・女性トイレ）の整備を行っています。



段差のない休憩施設



身体障がい者用駐車場



AED（自動体外式除細動器）



多目的（身体障がい者）トイレ



フィッティングルーム



トイレ内待ち合わせコーナー

●トイレ内設備の整備状況

	①和式便器の洋式化	②温水洗浄便座の設置	③温水対応自動水栓の設置	④女性用トイレブース増設
2008年度まで	2,856個	2,811個	297エリア	109ブース
2010年度 目標	約3,100個	約3,100個 （洋式便器全て）	300エリア （全エリア）	約40ブース増設

●サービスの向上

「礎づくり（サービスエリアの標準化）」「華づくり（サービスエリアの個性化）」をテーマに、コンビニエンスストアや専門店の導入、地域の特産品やそこでしか味わえない料理の提供を行っています。また、新しいコンセプトの「道ナカ」商業施設「Pasar」

2008年7月 OPEN



旬撰倶楽部
京葉道路 Pasar幕張（上り）

2009年3月 OPEN



地域商材の販売
東北道 前沢SA（上り）

●どら弁当の販売

地域の特性や立地条件に応じて特徴あるサービスエリア・パーキングエリアを目指す「華づくり」の一環として、NEXCO東日本のオリジナル商品「どら（道楽）弁当」を販売しています。

●「どら弁当」のコンセプト

- ・地域を代表する特産物、食材を使用
- ・500円～1,000円程度のお手頃な価格
- ・ドライブ（道）とともに、お手軽に楽しめる。

この3つのコンセプトにかなうものとして、旅行ジャーナリスト小林しのぶさんが監修し、おすすめするものです。

（パサール）」の建設、地域を彩るショッピングゾーン「旬撰倶楽部」の導入、旅のドラマを演出するSAの展開、商業施設のリニューアルなどを積極的に進めています。

2008年12月 OPEN



シアトル系カフェの導入
東関東道 酒々井PA（下り）

2009年3月 OPEN



「E-NEXCO野菜市場」
東北道 国見SA（下り）



●食の安全

お客さまに品質が良く安全な食品を提供することは食品営業の基本であり、食品の衛生管理は従事者全員が正確な衛生知識と自覚を持って日々実践されるべき大切な仕事です。保健所など食品衛生に関する専門機関と連携して「衛生管理に関する連絡会」を開催するとともに、衛生管理の基本知識とチェックポイントをまとめた「食品衛生管理のポイント」を作成し従事者に配布するなど食の安全に積極的に取り組んでいます。

●エリアコンシェルジュ

33カ所のサービスエリア・パーキングエリアに「エリアコンシェルジュ」を配置し、高速道路をご利用いただくお客さまの視点に立った解決策の提案など、きめ細かな対応を行っています。



エリアコンシェルジュ



接客研修

●ペットを連れたお客さまへのサービス

ドライブ途中でも安心して愛犬と楽しんでいたけようNEXCO東日本エリアでは、8カ所のサービスエリアに「ドッグラン」を設置しています。また、60カ所のサービスエリア・パーキングエリアでは愛犬用の「どら弁当ポチ」の販売も行っています。

【ドッグラン設置箇所】

- 道央道 有珠山SA（上り）
- 常磐道 守谷SA（下り）
- 東北道 佐野SA（上下一体）
- 東北道 那須高原SA（下り）
- 関越道 高坂SA（上下一体）
- 館山道 市原SA（上り・下り）
- 上信越道 佐久平PA



どら弁当ポチ



衛生管理に関する連絡会



食品衛生管理の
ポイント

●AED（自動体外式除細動器）の取り組み

万が一に備えて、サービスエリア・パーキングエリアの従業員が、設置されてあるAEDを適切に使用することが出来るよう講習会に参加しています。



AED講習会



認定書



ドッグラン

高速道路を有効活用し、 新たな取り組みを行っています。

お客さまの利便性を高めるために、高速道路を活用して新たな取り組みを行っています。また、フリーマガジンの配布などを通じて、お客さまへの情報提供、コミュニケーションに努めています。

高速道路をお得に利用できるカード

2006年12月、オフィシャルカード「E-NEXCO pass」のサービスを開始しました。これは、ETCカードがセットになったクレジットカード（非接触型決済サービス*）で、貯まったポイントで高速道路をご利用できるなど、他のカードにはない特典があります。高速道路をご利用されるお客さまの利便性向上を図るとともに、ETCの普及にもつなげていきます。

※ビザタッチ、スマートプラス対応



情報満載のポータルサイト

お客さまの快適で安全なドライブをサポートするため、ドライブ旅行の情報サイト「ドラぶら」において高速道路料金・ルート検索、道路交通情報、渋滞予測、サービスエリア・パーキングエリア情報などの情報を提供しています。また、特産品やオリジナル商品などの通信販売や宿泊施設の予約サービスなどを提供しています。



ドラぶら <http://www.driveplaza.com/>

高速道路から直接ご利用できるホテル

2008年7月、長距離ドライブのお客さまの宿泊ニーズにお応えするため、高速道路から直接ご利用でき、お手軽で経済的に泊まることのできるホテル「E-NEXCO LODGE」を東北道佐野SAにオープンしました。



E-NEXCO LODGE佐野SA店



客室内

高速道路の情報誌

高速道路地図やドライブ情報、サービスエリア・パーキングエリアのグルメ情報、施設情報など、お客さまにとって役に立つ情報を網羅したフリーマガジン「ハイウェイウォーカー」を、サービスエリア・パーキングエリアで無料配布しています。



ハイウェイウォーカー（北海道版・東日本版）

お客さまの声に応えサービスの改善、 満足度の向上に努めています。

「お客さま第一」を経営方針の重要な柱と位置付け、「お客さまセンター」を設置しています。お問い合わせ、ご意見・ご要望に24時間・365日対応するとともに、お客さまのニーズを把握し、より質の高いサービスの提供に挑戦しています。

お客さまセンターの設置・お客さまの声への対応

お電話やウェブサイトを通じて、毎日平均約1,500件のお問い合わせが寄せられています。また、いただいたご意見・ご要望は、現場組織に直ちに伝達され、経営陣を含め、社内全体で共有されています。

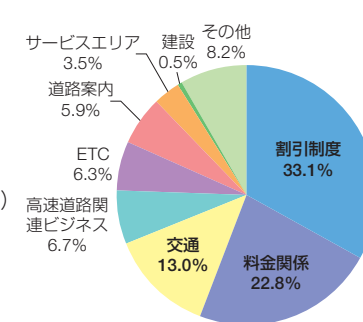
さらに、専用のシステムでさまざまな角度から分析し、お客さまサービスの向上に役立てています。

お客さまの声の受付状況(2008年度)

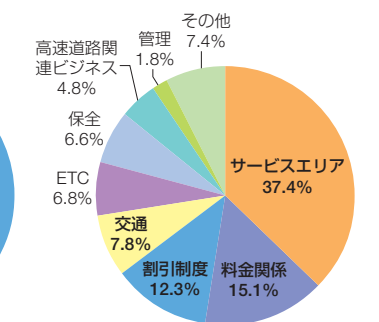
	総受付数	お問い合わせ	ご意見・ご要望
1年間合計	538,520件	527,277件	11,243件
1日あたり	1,475件	1,444件	31件
構成比率	100%	98%	2%

※日最大受付件数2,823件 2009年3月28日（休日特別割引開始日）

「お問い合わせ」の内訳



「ご意見・ご要望」の内訳



「お客さまの声」を受けて改善した事例

お客さまセンターに寄せられた「お客さまの声」をもとに、さまざまな業務改善を実施しています。

●Case 1

【お客さまの声】 携帯でも詳しい交通情報が見たい
【改善内容】

携帯電話の高速道路情報サイト「ドラぶらモバイル」では、高速道路料金、SA・PA情報などに加え、詳しい交通情報*（交通状況マップ、通行止め解除メールなど）がご覧いただける「ドライブトラフィック」を2009年6月より運用開始しました。

<http://m.driveplaza.com/>

※交通情報は（財）日本道路交通情報センター（JARTIC）の情報に基づき提供しています。



●Case 2

【お客さまの声】 サービスエリアで泊まれる宿がほしい
【改善内容】

長距離ドライブのお客さまの宿泊ニーズにお応えするために、2008年7月に高速道路から直接ご利用が可能で、お手軽で経済的に泊まることのできるホテル「E-NEXCO LODGE」を東北道佐野SA内に設置しました。

地域の経済活性化や、 地域社会との交流に取り組んでいます。

NEXCO東日本は地域と連携して、観光など地域の発展の推進を図るとともに、沿道の清掃や工事現場見学会などを通じて、地域貢献や地域社会との交流を図っています。

地方自治体との提携の強化（県との包括的提携協定）

宮城県、群馬県および長野県と各々包括的提携協定を締結し、災害対策などの安全・安心の確保、観光および特産品の振興、高速道路のサービス向上・利用促進などを共同で行っています。また、今後とも、地域との提携を強化する方策を推進していきます。



提携協定調印式

スマートインターチェンジの整備

ETCを利用して、サービスエリア・パーキングエリアなどから高速道路に出入りできるスマートインターチェンジの設置を推進しています。スマートインターチェンジの整備により、高速道路へのアクセスが改善し、地域経済の活性化に貢献しています。



スマートインターチェンジ（道央道 輪厚PA(下り)）

高速道路外からも利用可能なエリア

一般道側にもサービスエリア・パーキングエリアの入口および駐車場を設置し、高速道路をご利用するお客さまだけでなく、沿道地域の方にもご利用していただけるようにしています。



一般道側に設けられた入口（東北道 長者原SA）

交通安全への取り組み

安全運転意識の向上のため、交通安全運動期間の交通安全キャンペーンに加え、小学生や高齢者ドライバーを対象とした交通安全教室を開くなどの取り組みを積極的に行っています。



交通安全教室

現場見学会の開催

普段見たり、触れたりすることのできない営業中の高速道路の施設や、道路建設の現場を体感していただく機会として、各地で現場見学会を開催しています。作業機械の試乗や、工事現場で使用されている各種の材料に触れてみるなど、NEXCO東日本の事業を身近に感じていただけるように努めています。



現場見学会

沿道清掃

NEXCO東日本の社員と工事協力会社の社員で構成されている各地の工事安全協議会では、工事中の近隣の交通安全や、清掃活動に取り組んでいます。また、各地の管理事務所でも、継続的な清掃活動や、地域のクリーンアップ活動に参加するなど、地元の方々や観光客の皆さまにきれいな道路をご利用いただけるよう努めています。



清掃活動

地域交流

地域の方々へ日頃の感謝の気持ちを込め、道路開通前イベントなどさまざまな交流イベントを開催したり、地域の祭りに参加するなど、地域に密着した活動を行っています。今後も、交流を深める活動をさらに推進し、地域社会の発展に貢献します。



開通前イベント

埋蔵文化財調査

高速道路の建設に先立ち、都道府県の教育委員会などを通じて埋蔵文化財の調査を実施し、文化財の保全に努めています。また、地元の方々などを、発掘調査現場に案内するイベントなども開催しています。



発掘調査現場案内

相談窓口

現在整備中の横浜環状南線では、事業推進に当たり地域の皆さまとのコミュニケーションを図るため、コミュニケーション広場を開催して来場者と個別に対話を行ったり、沿線や周辺地域の皆さまからの疑問や不安、ご相談にお応えするための相談窓口を設けています。



相談窓口

大規模災害時には迅速な復旧を図り、高速道路のライフラインとしての機能確保に努めています。

山形道鶴岡地区における土砂流出災害復旧

2008年8月、山形県庄内地方を中心とした大雨により家屋浸水や道路ののり面崩落などが各所で発生しました。この大雨による山形道（庄内空港IC～酒田IC）下り線139.6kp付近の土砂流出災害は、切土のり面（3段）が崩落し、約5,000m³の土砂が上・下二車線に渡って本線を塞いだ大規模なものとなりま

した。
この災害に対し、本線に堆積した土砂の撤去など、応急復旧作業を24時間体制で夜を徹して実施し、発災後38時間で通行止めを解除、交通混雑期のお客さまへの影響を最小限にとどめました。



土砂流出の状況



応急復旧作業の状況

新潟県中越沖地震の復旧状況

2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震は、北陸道に多大な被害を及ぼしました。発災後直ちに応急復旧工事を行い、約4時間後には「緊急輸送道路」としての機能を確保し、緊急車両

の通行を可能にし、災害救助活動におけるライフラインとして機能しました。また、発災から約56時間で全線の通行止めを解除し、被災地の早期復旧に貢献しました。



被災直後の状況



発災から約4時間で緊急車両の車線を確保



発災から約56時間で全線の通行止めを解除

新潟県中越沖地震における通行料金無料措置

一般国道8号（上越市長浜および長岡市大積：土砂崩落）の通行止め区間の迂回路確保および被災地周辺（柏崎市内）の通行の安全確保のため、北陸道能生

ICから関越道長岡IC間において、2007年7月16日から段階的に通行料金無料措置を実施しました。

新潟県中越沖地震における高速道路の役割と効果

地震による北陸道の通行止めに伴い、上信越道・北陸道で新潟方面の交通が減少しましたが、関越道経由の交通が増加しており、被災区間の代替道路としての機能が発揮されました。
また、柏崎市をはじめとした被災地域における自衛隊支援活動車両の調整・修理を行う拠点として、関越道越後川口SA（上り）駐車場などを臨時基地として提供しました。
ここでは、サービスエリアの各種施設利用のほか、

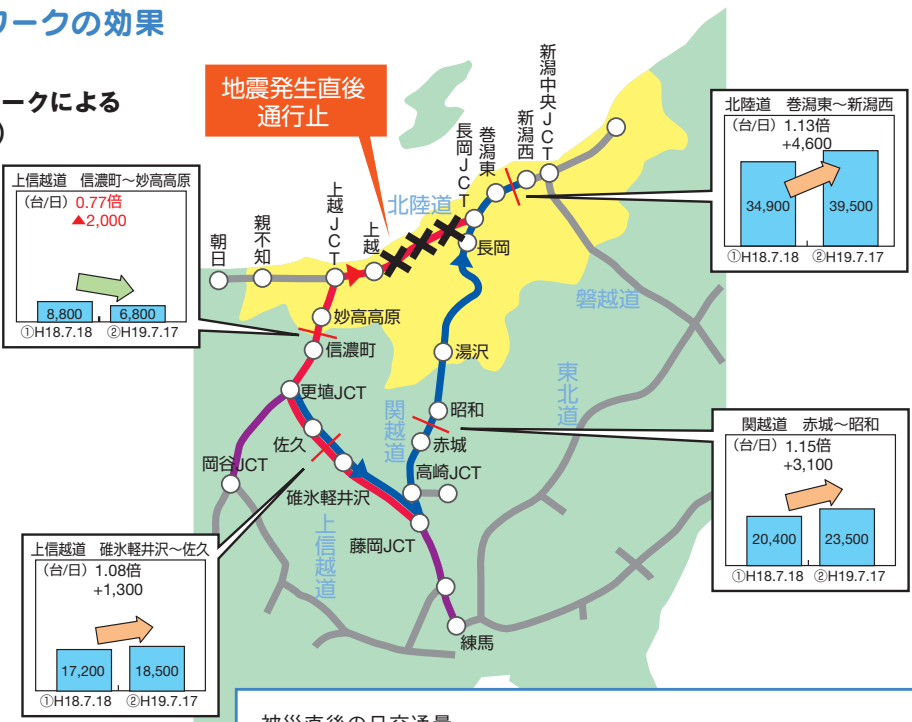
レストランからの飲料水提供や、定時連絡のためのFAX利用などの協力を行いました。



関越道 越後川口SA臨時基地

●高速道路ネットワークの効果

高速道路の広域ネットワークによる迂回状況(地震発生直後)



地震発生直後に北陸道上越IC～長岡JCT間の通行止めを行いました。これにより、赤色ルートの通行台数が減少し、青色ルートの通行台数が増加しました。代替ルートとして、高速道路ネットワークを活用することによって、交通混乱を招くことなく被災地の早期復旧に貢献しました。

被災直後の日交通量			
関越道	赤城～昭和	23,500台/日	前年同日より+3,100台(115%)
上信越道	碓氷軽井沢～佐久	18,500台/日	前年同日より+1,300台(108%)
上信越道	信濃町～妙高高原	6,800台/日	前年同日より▲2,000台(77%)
北陸道	巻湯東～新潟西	39,500台/日	前年同日より+4,600台(113%)

●「災害対応型自動販売機」の導入

商業施設のないパーキングエリアに「災害対応型自動販売機」を設置しています。災害対応型自動販売機は、普段は、通常の自動販売機として利用していただき、災害時には遠隔操作により商品を無料で提供することができるほか、メッセージボードで災害情報などを表示することができます。



災害対応型自動販売機

世界の高速道路づくりに貢献しています。

2009年4月1日に海外業務の専属組織として、海外事業チームを立ち上げ、体制強化を図りました。今後ともNEXCO東日本は、これまで培ってきた技術力やノウハウを活かし、海外における道路事業への参画、発展途上国への専門技術者の派遣、国際技術交流を行い、世界の高速道路づくりに貢献します。

海外での道路事業への参画

NEXCO東日本は、総合的な高速道路技術やノウハウを活用し、昨年、以下の事業に参画しました。これからも海外の道路事業に積極的に参画していきます。

- 1) アルジェリア東西高速道路建設工事
- 2) ベトナム南部高速道路に係る詳細設計
- 3) インド-ハイデラバード外環道路に係る調査業務



インドの料金所

発展途上国への専門技術者派遣

パキスタン、インドの道路関係機関、国際協力機構（JICA）に専門技術者として社員を派遣し、各国の交通分野の問題解決に貢献しています。



専門家活動状況

国際会議と技術交流

PIARC（世界道路協会）やREAAA（アジア・オーストラレイシア道路技術協会）などの活動に積極的に参加し、世界の道路関係者と交流を深めています。また、日本政府からの要請で、日本におけるETC技術をインドに導入することを目的とする「日印ICT※セミナー」へのプレゼンターの派遣や各国駐日大使館に高速道路技術を紹介する「国際建設フォーラム」への参画などの技術交流を行っています。

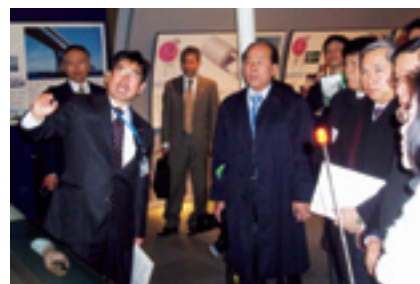
※Information and Communication Technology（情報通信技術）



国際建設フォーラムでの意見交換

諸外国からの視察、研修の受け入れ

2008年度は、JICA（独立行政法人 国際協力機構）からの研修や諸外国からの視察で、15ヶ国、280名を受け入れました。



ベトナムからの視察の受け入れ

取引先との連携を深め、よりよいサービスの提供や、安全・円滑な事業を推進します。

お客さまによりよいサービスを確実に提供するために、サービスエリア・パーキングエリアのテナント支援を行っています。また、安全で効率的な高速道路建設に向けて、工事施工会社と一体となって「安全協議会」を設置し、工事中の事故防止に取り組んでいます。

サービスエリア・パーキングエリアのテナント支援

「ハイウェイウォーカー」「E-NEXCO 美味しい旅」や、ドライブ旅行の情報サイト「ドラぶら」などで、サービスエリア・パーキングエリアで味わうことができるメニューや販売商品の情報を積極的に発信するほか、新メニューコンテストを開催するなどサービス

エリア・パーキングエリアのテナントの営業活動をサポートしています。また、「お客さまセンター」に寄せられたご意見を全てのテナントで共有する体制を構築し、サービスレベルの向上につなげています。



ハイウェイウォーカー



E-NEXCO美味しい旅



新メニューコンテスト

工事中の事故防止への取り組み

工事中の事故防止のために、工事施工会社と一体となった「安全協議会」を設置しています。安全協議会では作業員の安全確保に向けて、工事現場の安全パトロールや安全講習会の実施、安全優良会社の表彰などの活動を推進しています。



安全講習会

新たな人事制度を構築し、ワーク・ライフ・バランスを推進するなど、「社員が働きやすい職場」の環境づくりに取り組んでいます。

NEXCO東日本は、社員の働きがいと業績向上の両立を図ることを目的に、2007年度から新人事制度を導入しています。お客さまへのサービスの向上、会社としての業績向上のためには、まず社員が働きがいを感じる職場の環境づくりが不可欠と考えます。

そこで、社員の能力の発揮・実績などを公正に評価する制度を導入するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進し、休暇制度や福利厚生制度を充実させるなど、社員が働きやすい職場の環境づくりを図っています。

社員教育

NEXCO東日本が持つ公共性と民営化の趣旨を正しく理解し、株式会社としてふさわしい良識ある社員に育成する観点から、社員教育を実施しています。社員教育は、職場内教育（OJT）を基本に、社員研修（Off-JT）や通信教育研修、海外（国内）留学など、総合的かつ効果的に行っています。社員研修には、新入社員研修のほか、階層別研修や業務別研修などがあり、公正な業務運営を目指して、コンプライアンス研修なども組み込んだ内容としています。

2008年度の研修実績

階層別研修	計11コース(受講者:約290名)
業務別研修	計32コース(受講者:約620名)



人事評価

人事評価制度は、成果評価と能力行動評価の2つから構成されており、成果評価は、組織内での業務分担を踏まえた各人の業績を半年ごとに、能力行動評価は、業務遂行行動を1年ごとに評価します。

制度運用に当たっては、透明性・公正性・納得性を重視し、評価結果は、社員の指導・育成に活用するとともに、処遇に反映します。

表彰制度

社員自らの創意工夫によりチャレンジし、業務効率化など具体的な成果が上がったものであり、かつ、業務を完遂した努力・姿勢などが他の社員の模範となるものを対象として、毎年10月に社長表彰を行っています。2008年度は、11件の事案が受賞しました。



2008年度社長表彰式

タスクダイエット活動

NEXCO東日本グループでは、社員一人ひとりが自発的に取り組む業務改善活動として「タスク・ダイエット活動」を実施しており、活動に取り組む社員、現場組織のモチベーション向上などを目的として、毎年「タスク・ダイエット発表会」を開催しています。



タスク・ダイエット発表会

ワーク・ライフ・バランスの推進

社員の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を推進するため、年次休暇のほか、各種の休暇制度を設けています。

育児休業	社員の子供の養育のため、子供が3歳に達する日まで。	看護休暇	小学校就学前の子供の看護のため、5日以内。
産前・産後休暇	社員が出産する場合は、産前6週間・産後8週間。	介護休暇	社員の親族などで日常生活を営むのに支障がある者の介護のため、連続する6ヶ月の期間内において必要な期間。
配偶者分娩休暇	社員の配偶者が出産する場合は、3日以内。	ボランティア休暇	社員が社会貢献活動として、災害時における被災者や障がい者などに対する支援活動を行う場合は、5日以内。
育児参加休暇	社員の配偶者が出産する場合に、出産した子供または小学校就学前の子供の養育のため、5日以内。		

福利厚生

●社員の健康管理

社員の健康維持・増進を図るため看護師が常駐する「健康相談室」を設置し、健康管理面のサポート体制を構築しています。また、「心の健康づくり計画」を策定し、相談窓口の設置や研修の実施など、メンタルヘルスケアにも積極的に取り組んでいます。

●労働安全衛生システム

「衛生委員会」を設置し、社員の安全と健康の保持、職場環境の向上を図っています。また、社内イントラネットを活用し啓発活動を積極的行っています。

健全な労使関係維持

会社における良好な職場環境と人間関係を構築するためには健全な労使関係が基本にあると考え、定期的に会社側から労働組合に経営方針等を説明し、労使で意見交換を行う「経営懇談会」を開催するなど、相互の理解を深めています。

ダイバーシティ（多様化）の実現

●障がい者の雇用

障がい者の採用に積極的に取り組み、2008年度は管内各地の障がい者就職面接会に計5回参加するなどして、新たに13名を採用しており、採用後は各地域・各分野で活躍しています。

●高齢者の雇用

社員が将来の雇用不安を抱くことのないよう、高齢者雇用安定法を踏まえ、年金支給開始年齢（65歳）までの雇用を前提として、再雇用やグループ会社への転籍により希望者の雇用を確保しています。

経済



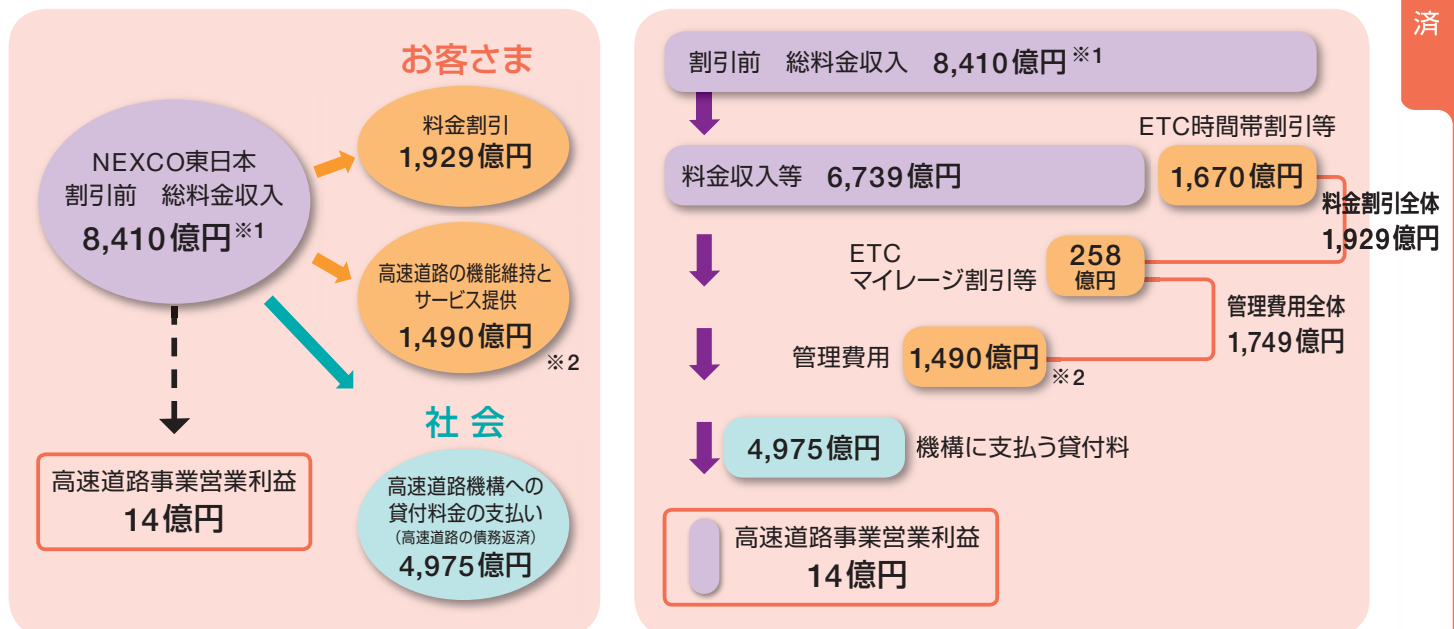
お客さまからいただいた通行料金をもとに、高速道路という社会インフラを適正に管理運営しています。また、サービスエリア事業や高速道路関連ビジネスによる収益拡大を目指すとともに、経営基盤の確立、財務体質の強化に努めます。

お客さまからいただいた通行料金をもとに、道路の機能維持、サービスの提供および、高速道路機構を通じた債務の返済を行っています。

高速道路事業における還元のしくみ（2008年度）

高速道路事業では、高速道路料金に利潤を含まないこととなっています。お客さまにはさまざまな料金割引をご利用いただいております。その上で、いただいた料金は、安全・安心・快適・便利な高速道路のた

めに必要な道路の維持管理や各種サービスの提供などとともに高速道路機構を通じた債務の返済にあてています。



※1 割引前の総料金収入に社会実験の減収補てん等100億円を加えた額です。

※2 道路の維持管理や料金収受に要する費用などの合計で、修繕費、災害復旧費は含みません。

[単位未満を切り捨てて表示しているため、表上の計算は合わない場合があります。]

2008年度 損益状況

単位：億円

		連 結		単 体	
		2007実績	2008実績	2007実績	2008実績
高速道路事業 ※3	営業収益	8,723	8,110	8,688	8,055
	営業費用	8,674	8,066	8,659	8,041
	営業利益	48	44	29	14
関連事業	営業収益	672	660	565	497
	営業費用	609	600	527	461
	営業利益	63	59	38	35
全事業	営業利益	112	103	67	49
	経常利益	138	133	75	60
	当期純利益	87	76	43	26

[単位未満を切り捨てて表示しているため、表上の計算は合わない場合があります。]

株式の状況および配当政策

NEXCO東日本の発行済株式総数は105百万株です。株主は、国土交通大臣と財務大臣であり、発行済株式総数に対する所有株式割合は、それぞれ99.95%、0.04%です。当社では、当分の間は、財務体質を強化することを最優先課題の一つとし、内部留保の充実に努めていくこととしています。

※3 営業収益および営業費用は、それぞれ道路資産完成高、道路資産完成原価を含んだ額です。

※4 当期は、法人税等32億円を計上しました。

NEXCO東日本はチーム・マイナス6%に参加しています。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

東日本高速道路株式会社

〒100-8979 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付15F)

お問い合わせ先 NEXCO東日本 お客様センター

0570-024-024

(PHS・IP電話のお客様:03-5338-7524)

発行部署 広報室

<http://www.e-nexco.co.jp>

